

奈良市文化振興計画 事業評価シート (平成30年度)

事業名		開館20周年記念事業 よちよちコンサート			施設名	なら100年会館		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2)-②		
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興					
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成28年	実施回数	2		
日時	平成30年12月22日(土) 11時,14時開演			会場	なら100年会館 中ホール			
目的と内容	未来を担う子ども達を対象とした芸術文化公演の実施など芸術文化の裾野を広げるため、あらゆるジャンルの多彩な事業の展開によって新たなファンの獲得につなげる事業です。内容は0歳から入場できる、親子で楽しめるコンサート。親しみのある曲を聞いて頂くとともに、参加コーナーでは楽器を貸出し、一緒に演奏できる楽しい演奏会です。							
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>
	その他	( )						
重点対象に対する 課題と取り組み	参加した子供たちに、より楽しく演奏会を聴いて頂くために、前年度の演劇形式から演奏会形式に変更します。軽快なMCによる進行で子供たちの興味を引きつけ、演奏会の雰囲気に入り込んでもらうという取り組みです。							
事業費(円)								
	歳入			歳出				
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	420,000	420,000			
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	353,661	353,661			
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無 (一部項目なし)	アンケート結果	別紙添付		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標値300人(2公演)に対して245人、達成率は81.7%であった。 目標値: 300 実績値: 245					
	参加者満足度	4	アンケートを実施したところ、①大変良かった56%、②良かった44%、合計100%の方に満足していただいた。					
	重点対象に対する課題解決につながったか	2	参加した子供たちにより楽しく演奏会を聴いて頂くために、前年度の演劇形式から演奏会形式に変更したが、出演者側のMCをきめ演出の準備不足などで、逆に子供たちの集中力を切らしてしまう状況となった。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	4人の出演者がそれぞれ複数の楽器を演奏したりするなど、小さな子ども達がたくさんの楽器を観たり聴いたりして楽しめるように工夫した。					
総合評価(自動計算)			4					
参加者や協働相手からの意見			(参加者) 参加型コンサートなので良かった。いろいろな楽器があって大人も楽しめた。小さな子どもでも楽しめる内容だと思う。いろんな楽器でいろんな曲が盛りだくさんで楽しかった。歌のお姉さんのCDが欲しい。歌がものすごくうまかった。とても心地よかったなどの声があった。 (協働者) 子どもから大人まで楽しめるプログラムを目指し企画構成した。昨年度のコンサートより打楽器奏者を一人増員したことで、ドラムだけでなくマリンバや小物類など、様々な打楽器の音色を楽しんで頂けたと思います。					
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
	打楽器奏者を昨年度より増員し4人で演奏したことで、様々な打楽器の音色を楽しんで頂けた。今回は演奏会形式で行ったが、前回の演劇形式よりも小さな子ども達の集中力が持たなかったように感じた。また、波の音を打楽器で鳴らして曲に入るといった場面では、静寂になるようにアドリブでMCを入れても良かったと思います。集客については、特に少なかった14時からの公演については時間変更などの再考が必要である。			出演者に若手演奏家を起用する上で、テーマを理解して頂くために、大まかな流れだけでなく、MC原稿作成や曲目内容など細部まで話し合うように改善する。集客については、現在10時と14時の2公演だが、14時の入りが悪いので時間変更などを検討する。また、奈良市近隣の京都府南部の木津方面にもチラシを配布するなど、チラシ配布箇所等の拡大を図る。				
評価								
(奈良市) 一般的な音楽コンサートには参加しにくい、未就学児、子育て世帯などを重点対象として企画を行っている。ならまちセンターや北部会館市民文化ホールでも、同様の企画を実施することで地域的偏在をできるかぎりなくした施策展開を図っている。3施設とも同じ指定管理であることから、開催時期の検討や内容、改善点の情報共有が望まれる。1日2公演で、午前開催の来場者が155人に対し午後は90人と少なく、開催時間を含めた企画内容や広報の方法などを検討していく必要がある。								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		文化の絆で地域を結ぶプロジェクト バリアフリーコンサート			施設名	なら100年会館				
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化			文化振興計画 該当項目	(2.)-②③				
	基本施策 施策	2-05 2-05-01 文化の振興								
実施形態	単発(継続)		事業開始年	平成29年		実施回数	1			
日時	平成31年2月2日(土) 14時開演			会場	なら100年会館 小ホール					
目的と内容	市民に社会参加の機会を提供するという社会的包摂の視点を持った事業を実施します。「文化の絆」をテーマとした事業や社会的包摂の考え方に沿った、誰でも気軽に一緒に楽しめる事業を継続的に展開します。お身体に不安のある方、健常者の方も、誰もが共に楽しんで頂ける内容のコンサートを段差のないフラットな小ホールで開催します。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	誰でも気軽に音楽を楽しんで頂けるような公演を目指しています。小ホールは演者・来場者の距離を近くし、一体感が生まれるような会場です。内容も馴染みのある曲目をプログラムに取り入れた構成としています。									
事業費(円)										
					歳入		歳出			
予算	市費(指定管理料等)	199,000			その他収入 (事業収入等)	223,000		422,000		
決算	市費(指定管理料等)	0			その他収入 (事業収入等)	199,802		199,802		
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無 (一部項目なし)		アンケート結果		別紙添付		
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度		4		目標値は定員100人の80%。目標値80人に対して89人、達成率は111.2%であった。 目標値: 80 実績値: 89					
	参加者満足度		4		アンケートを実施したところ、①大変良かった74%、②良かった18%、合計92%の方に満足していただいた。					
	重点対象に対する課題解決つながったか		4		福祉施設などへの広報や出演者自身の繋がりから人を介しての広がりもあり、高齢者や子ども達にも多く来場していただき楽しんでいた。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4		出演者自身が真摯に音楽に向き合っており、この公演を成功させようとする姿勢を感じられた。来場される方々への気遣いもさることながら、演奏者を取り囲んで鑑賞できる座席の配置とすることで、より楽しんでもらえるように工夫した。					
総合評価(自動計算)			4							
参加者や協働相手からの意見				(参加者) ホールがバリアフリーだったので近くで迫力があって、いろんな打楽器を使ってる演奏を聴くことができ良かった。アットホームな感じで身近な場所で楽しく聞けた。近くのお年寄りが楽しそうに聞いてほっこりした。 (協働者) 来場者のみなさんからさまざまな意見を聞いた。バリアフリーというテーマをみなさんそれぞれ色々な意味で捉えていただけた。みなさんにはお気に入りの曲を見つけていただけたかなと私も嬉しく思う。素晴らしい機会をいただいた。						
評価年度の状況と課題					改善案・次年度以降の目標					
総括					総括					
小ホールは会場がフラットで舞台と客席の境がなく、今回は演奏者を取り囲んで鑑賞できる座席の配置としたため、演奏者と来場者の目線が同じでふれあいやすい催しとなった。今回、インフルエンザの流行期と重なり、楽しみにされていた福祉施設からのグループの方が来場できなくなり、お互い残念な思いをした。小さなお子さんがぐずってしまったときは、嫌な顔をすることもなくお互いを思いやった行動をされていた。					昨年同様チケットが完売となるなど人気のコンサートとなった。この公演のテーマであるバリアフリー、ふれあいなどに最適な会場は小ホールであると考えている。このホールを有効に使えるように工夫することで、来場者の要望に沿えるようにしたい。開催時期については、感染症の流行する時期を避ける方向で検討したい。					
評価 (奈良市) フラットな会場である小ホールの活用方法としても有意義であったと考える。「社会的包摂」をテーマとした企画は、市全体の取組みとしては十分ではないため、本事業をモデルとして、さらなる取り組みを検討していきたい。インフルエンザの流行期の開催となったが、ホールの予定をふまえた開催時期の検討は必要である。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		開館20周年記念事業 奈良の文化芸術の地産地消 第8回万葉オペラ・ラボ公演			施設名	なら100年会館				
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1) - ①②③④				
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成22年		実施回数	1			
日時	平成31年2月11日（月・祝） 14時開演			会場	なら100年会館 中ホール					
目的と内容	奈良の魅力を発信する「なら100年会館」を目指す事業。若手演奏家の育成と万葉集など奈良の芸術・歴史・文化の情報を発信するために開催します。オペラ歌手を目指す学生や若手演奏家の「万葉オペラ・ラボスタジオ」、市民公募の合唱団「万葉オペラ・ラボフレンズ」、会館コーラス教室の「万葉オペラ・ラボキッズ」で構成する市民参加型のオペラ。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客		地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	( )								
重点対象に対する課題と取り組み	合唱などで市民参加型のオペラを継続することで、地域に万葉オペラの素晴らしさ、楽しさを知って頂くように努めていますが、地域への周知、広がりが必要。様々な機会を捉えてミニ公演など事業の周知活動に取り組んでいます。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	3,433,000	3,433,000					
決算	市費(指定管理料等)	149,181	その他収入(事業収入等)	1,668,100	1,817,281					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				<input checked="" type="radio"/> 有・無	アンケート結果	別紙添付				
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標値は定員400人の80% 目標値320人に対して374人、達成率は116.9%であった。 目標値: 320      実績値: 374							
	参加者満足度	4	アンケートを実施したところ、①大変良かった75% ②良かった18% 合計93%の方に満足していただいた。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	5	市民合唱団である万葉オペラ・ラボフレンズの方々が複数のチケットを購入してくださったり、ラジオでも宣伝した効果があり、チケットは売完となりました。広く市民及び市外在住者の来館に繋がった。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	今回はプロジェクションマッピングを取り入れ、舞台後方のガラス面に映すということを試みた。							
総合評価(自動計算)		4								
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) 万葉集も歌われて良かった。照明などきれいで良かった。歌が皆よく声が出て良かった。遣唐使の息遣いが伝わってきた。歌声は充分聞き取れたが、話し声は少し聞き取れなかった時もあった。唐の都から風の森へのストーリー展開がよくわからなかったなどの声があった。</p> <p>(協働者) 今回はプロジェクションマッピングを加えてホール全体を舞台セットに見立てた演出を考えた。ガラス面を利用して映像をパノラマ的に見せることができた。現代のテクノロジーである映像と天平衣装の相乗効果もあり、お客様に楽しんでいただけた。</p>								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	今回は市民合唱団の万葉オペラ・ラボフレンズの方々へのチケット販売も好調で、更にラジオなどによる宣伝効果で、早々に売完し補助席を出すこととなった。しかし、初めてご観覧者の中には、内容がよくわからなかったという声もあった。また、初めてプロジェクションマッピングを試みたが、施設が暗転にならない点と、投影がガラス面という点で、実際の映像で効果が出ていない場面があった。				万葉オペラ・ラボ事業のなかでも万葉オペラ・ラボ公演は今回で8回目となりました。今後は、万葉オペラ・ラボ事業として、万葉オペラ・ラボスタジオ生の人材養成にあたる「オペラ魅力探訪」、「万葉オペラ・ラボスタジオ生によるコンサート」、普及啓発にあたる「まちなか万葉劇場」を継続して実施しますが、大掛かりな万葉オペラ・ラボ公演については、毎年行うのではなく計画的に実施していきます。					
評価										
(奈良市) プロジェクションマッピングを取り入れるなど、新たな演出を取り入れることは、過去の観覧者に対してでも有効であると考え、予算的な問題もあり、公演を毎年開催することは難しいが、「万葉オペラ事業」には人材育成や普及啓発も含まれており、開催がない年度も継続して実施することで、事業の周知に努めていく。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		ならまちコンサート		施設名	奈良市ならまちセンター						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①・(5)-②						
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興								
実施形態	継続	事業開始年	平成20年度	実施回数	1						
日時	平成30年6月9日（土）14：00開演		会場	奈良市ならまちセンター市民ホール							
目的と内容	洗練された演奏家による演奏会を開催し、ならまちの文化芸術のすそ野を広げる。 プロジャズピアニスト・作曲家である秋田慎治による、ソロピアノライブを開催。										
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>	
	小中学生		若者（高・大等）		社会人（40歳未満）		社会人（40歳以上）		高齢者		
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
その他	( )										
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：集客 取り組み：広報宣伝として、奈良市広報の活用、文化施設各所他へのチラシ配布、新聞等への告知掲載依頼等										
事業費（円）											
	歳入				歳出						
予算	市費（指定管理料等）		0	その他収入 (事業収入等)	400,000	400,000					
決算	市費（指定管理料等）		0	その他収入 (事業収入等)	321,500	321,500					
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員の本スピリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果	別紙添付のこと						
指標		評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）								
成 果	参加者数・参加率の達成度		2	参加者数は129名、参加率は64.5%であった。昨年度は、目標値を超えての参加率であったが、今年度は目標値を超える事ができなかった。 目標値： 200 実績値： 129							
	参加者満足度		4	アンケートは、大変よかった89%、よかった11%の結果で、参加者には満足いただいていると考えら							
	重点対象に対する課題解決つながったか		2	広報宣伝として、奈良市広報の活用や文化施設各所へのチラシ配布等行ったが、集客にはつながらなか							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	出演者は、ジャズピアニストであり作曲家でもある秋田慎治。日常的なジャズアンサンブル内でのピアニストとしての活動のみならず、ジャズピアノのソロライブを10年以上続けている実力派。							
総合評価（自動計算）			3								
参加者や協働相手からの意見			(参加者) ・また来年も秋田さんをやってほしい。 ・今年で秋田さんを聴くのが3回目。また来年も来ていただきたい。 恒例的に秋田さんのジャズピアノコンサートの開催を望む声が多い。 (協働者) 出身地の奈良で継続してのコンサートを開催していただいて感謝している。次回も開催していただけることを強く希望。								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	継続開催しているため固定ファンが増えてきているものの、目標値を超える集客にはなかなかつながらないのが現状。一人でも多くの方に聴いていただくために、まずは足を運んでいただけるような工夫を考える必要がある。				広報宣伝の一環として広報媒体には、情報掲載だけでなく記事として掲載していただけるような工夫をしていきたい。開催内容の見直しとして、ジャズにこだわらず他のジャンルも視野に入れ広く地域に根差したコンサートを企画したい。また、次年度以降は、収容人数の半数以上の集客を目指したい。						
評価											
(奈良市) 参加者の満足度も高く、リピーターもおり、一定の成果をあげているが、参加者数が芳しくない。出演者が奈良市出身ということから、主に地域住民を重点対象としているが、今後継続するかどうかは、企画内容を含めて検討が必要である。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		ならまち落語会		施設名	奈良市ならまちセンター		
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2) -①・②・④ (4) -①・③・④		
	基本施策	2-05	文化振興				
	施策	2-05-01	文化の振興				
実施形態	継続	事業開始年	平成20年度	実施回数	1		
日時	平成31年1月27日（日）14：00開演		会場	奈良市ならまちセンター市民ホール			
目的と内容	奈良市出身の落語家による落語会を開催し、ならまちににぎわいを育み伝統芸能のすそ野を広げる。						
重点対象 (複数可)	市民	○	市外在住者	観光客	地域住民	○	未就学児
	小中学生		若者（高・大等）	社会人（40歳未満）	社会人（40歳以上）		高齢者
	子育て世帯		障がい者	在留外国人	訪日外国人		
	その他	（ ）					
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：集客 取り組み：広報宣伝として、奈良市広報の活用、文化施設各所他へのチラシ配布、新聞等への告知掲載依頼等						
事業費（円）							
	歳入			歳出			
予算	市費（指定管理料等）	0	その他収入 (事業収入等)	240,000	240,000		
決算	市費（指定管理料等）	0	その他収入 (事業収入等)	236,500	236,500		
事業成果							
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホテルリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)		有	アンケート結果	別紙添付のこと			
	指標	評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）				
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	参加者数117名、参加率97.5%で、ほぼ目標値を達成できた考える。 目標値： 120 実績値： 117				
	参加者満足度	4	大変良かったが70.9%、良かったが22.5%と、90%以上の方に満足いただけている。				
	重点対象に対する課題解決つなぐたか	3	出演者にもチケット販売協力をして頂いたり、他の施設でのチラシの挟み込みや他の催しでのチラシ配布を行ったりしたが、思いのほか集客にはつながらなかった。				
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	本事業は奈良市出身や奈良で活動されている噺家を応援するとともに、奈良の特色を活かした寄席の実現を目指している。奈良市出身の落語家笑福亭生寿さんを中心にその師匠他2名の計4席で開催した。質の確保は言うまでもなく、専門家としての伝統芸能を市民に体感していただくことが出来た。				
総合評価（自動計算）		4					
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・定期的に開催してほしい。 ・次回も楽しみにしています。 (協働者) 奈良にゆかりある落語家より地域色のある落語会にしていくよう、協働団体の「奈良町落語館」と検討することで一致した。					
総括	評価年度の状況と課題		改善案・次年度以降の目標				
	奈良市出身の落語家を中心とした落語会。6回目を迎え、少しずつではあるがリピーターも増えてきている。メディアで露出の多い落語家でないとなかなか集客には繋がりにくく、向の縁も無い落語家を誘致するよりは奈良の特色を活かせる演者を選び、継続開催し落語会を根付かせていきたい。		地道な声かけによるポスター掲示協力や、チラシの配布など広報宣伝を継続していきたい。マスコミ等には、情報掲載だけでなく記事として掲載していただけるよう広報面で工夫をしていきたい。公演内容やジャンルにかかわらず地域の方が、毎回開催を楽しみにしていただける「ならまち落語会」となるようにしていきたい。				
評価							
(奈良市) 奈良市出身の笑福亭生寿による落語会として毎年開催している。 他施設でも落語イベントは一定の集客が見込め、参加者の満足度も高い。 一方、他施設でも同様の企画があることから、当施設での独自性を持った企画としていく必要がある。							



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		開館30周年記念行事			施設名	奈良市ならまちセンター				
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化			文化振興計画 該当項目	(2)-①・②・④				
	基本施策	2-05 文化振興								
	施策	2-05-01 文化の振興								
実施形態	単発		事業開始年	平成30年度		実施回数	4			
日時	①8月18日、14時「ならまち室内楽コンサート」 ②12月8日、14時「祝い歌」 ③12月24日11時、14時「ならまち親子で楽しめるクリスマスファミリーコンサート」			会場	奈良市ならまちセンター市民ホール					
目的と内容	開館30周年を記念し、文化芸術の普及、地域活性化を目的とした催しを開催。奈良市在住や奈良市出身の演奏家（団体）等、地域財産の活用と、それらによるクオリティの高い公演を市民に提供する。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生	<input type="checkbox"/>	若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	課題：集客 取組み：広報宣伝として、奈良市広報の活用、文化施設・関係各所他へのチラシ配布、新聞等への告知掲載依頼等									
事業費(円)										
繰入										
予算	市費(指定管理料等)	0			その他収入(事業収入等)	900,000		繰出		
								900,000		
決算	市費(指定管理料等)	0			その他収入(事業収入等)	716,600		繰出		
								716,600		
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果	別紙添付のこと				
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	参加者数は694、参加率は86.7%で、概ね達成できた。 目標値：800 実績値：694							
	参加者満足度	4	アンケート結果では、大変良かった88%、よかった11%と、ほぼ100%の方に満足いただいていると考えられる。							
	重点対象に対する課題解決につながったか	3	奈良市、奈良県の各記者クラブに投げ込みを行い新聞等で告知記事を掲載していただいた。ファミリー向け公演では当施設周辺の保育園、幼稚園、小学校にチラシ配布をお願いした。また、出演団体の各メンバーにも広報宣伝とチケット販売に協力していただいた。①と②では、思う様な集客にはつながらなかったが、③では、幅広い方の集客につながった。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	①トロント交響楽団アシスタントコンサートマスター、京都市交響楽団チェロ奏者に加え、奈良市在住の若手ピアニストで、クオリティの高い演奏ができた。 ②メンバー全てがプロ演奏家として活躍していて、クオリティの高い演奏内容であった。また、演奏曲目のほとんどを出演者が編曲し、尺八、チェロ、ピアノ、打楽器という和洋折衷のアンサンブルで、とても聴きやすくて楽しいプログラムをお聴きすることができた。 ③出演者は、奈良県を代表する一般吹奏楽団で、関西大会出場常連団体であり、過去に全国大会出場経験があり実力ある一般吹奏楽団。演奏はもとより楽しい演出で会場一体となり大変盛り上がりがあった演奏会となった。							
総合評価(自動計算)		4								
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①・素晴らしい演奏で、足を運んだ甲斐がありました。音の響きや伸び、ひびき、全て素晴らしい。</li> <li>・全ての曲が良かった。</li> <li>・今回のような本格的で奈良出身の方のコンサートをまた開催してほしい。</li> <li>・今回のような色んな楽器を組み合わせた娯楽性の高いクラシックを聴きたい。</li> <li>・今回と同じ方々のコンサートをもう一度聞きたいです。</li> </ul> <p>③・客席との一体感がありとても楽しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが楽しめるプログラムに工夫がありとても楽しめた。</li> <li>・楽譜紹介で各楽器の音を聴くことができた。</li> <li>・また来年も参加したい。</li> </ul> <p>(協働者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①出身地である奈良市で演奏する機会をもらえて感謝している。また、若い音楽家と共演出来たことが良かった。今後も機会があれば演奏させてほしい。</li> <li>②開館30周年の事業として出演させていただけで、とてもうれしく思っている。今回の編成での演奏は、引き続き活動を続けていくので、今後も機会があれば是非演奏させてほしい。</li> <li>③親子で楽しめるコンサートは初めてだったが、客席を身近に感じられて、お客様の反応を肌で感じることができ、演奏してとても楽しかった。多くのお客様の前で演奏することができて良かった。今後も是非、演奏させてほしい。</li> </ul>								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	開館30周年を記念して、室内楽、和洋折衷のクラシックアンサンブル、親子向けコンサートとジャンルを違う催しを開催した。どの公演も奈良にゆかりのあるクオリティの高い演奏者(団体)によるもので、地域財産を有効に活用出来た催しであった。どれもクオリティが高く好評であったが、集客は、クラシック系の①と②では思わしくなかった。				<ul style="list-style-type: none"> <li>①まずは、クラシックコンサートをより知っていただくためのアウトリーチやワークショップを開催して、より親しみを持っていただけるようにしたい。次年度以降の目標としては、収容人数の半数を超える集客を目指す。</li> <li>②コンサートのみの一過性の公演ではなく、事前講座や事前解説のような本公演に関連したものを別の日に開催し、参加する楽しみを持ってコンサートを聴きに来てもらえるような企画を考えたい。次年度以降の目標としては、収容人数の半数を超える集客を目指す。</li> <li>③好評であった演出・構成を次年度以降も継続させ、さらに新しいものを出演者と共に作り上げていきたい。</li> <li>それぞれ、広報宣伝としてマスコミ等には、情報掲載だけでなく記事として掲載していただけるよう工夫をしていきたい。</li> </ul>					
評価										
<p>(奈良市)</p> <p>開館30周年事業として、クラシックコンサート等を中心に展開した。親子対象のコンサートの来場者は好評であったが、それ以外については否戦した。周年事業としては今年のみ開催ではあるが、一過性の事業ではなく、今年度の成果を受けて、アウトリーチ活動などへと繋げるよう検討していきたい。</p>										

事業名		わらべうた教室		施設名	奈良市音声館						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(4) - ① (9) - ①						
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興								
実施形態	単発 <b>継続</b>	事業開始年	平成7年	実施回数	子どもクラス：4クラス×年27回 いきいきクラス（大人）：2クラス×年10回						
日時	子どもクラス：毎月水・木曜日 9：30～11：30 / 15：00～16：45 いきいきクラス（大人）：毎月第4金曜日 ①10：30～12：00 ②13：30～15：00		会場	音声館ホールまたはプレイルーム2							
目的と内容	<p>奈良に伝わる“わらべうた”を継承し、ならまちの文化振興に役立てるとともに、わらべうたを通して奈良の歴史や文化への関心を育み、ふるさと奈良への愛情と誇りを育む。 わらべうた本来の姿を大切にしながら現在にふさわしいアプローチ方法を用いてわらべうたへの興味・関心を引き出し、同時にわらべうたを通して子どもたちの人間関係づくりを援助し、幅広い層での世代間交流を経験できる場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●1・2歳児クラス（親子）／木：25組程度</li> <li>●3歳児クラス（子どものみ）／水：20人程度</li> <li>●4・5歳児クラス（子どものみ）／木：20人程度</li> <li>●小学生クラス（1～6年生）／水：40人程度</li> <li>●いきいきクラス（50歳以上）2クラス／金：各90人程度</li> <li>●大人が学ぶわらべうた遊び（18歳以上）土または日／年2回：10人程度</li> </ul>										
重点対象 （複数可）	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>	
	小中学生	<input type="radio"/>	若者（高・大等）	<input type="radio"/>	社会人（40歳未満）	<input type="radio"/>	社会人（40歳以上）	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>	
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
	その他	（ ）									
重点対象に対する課題と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1・2歳児クラス／3歳児クラス／4・5歳児クラス わらべうた遊びを中心に絵本読み聞かせ等もと入れ、子育て世代の親同士、子ども同士、そして親子のふれあいの場とする。</li> <li>●小学生クラス（小1～小6） “わらべうた”を歌いながらまりつきやお手玉・大縄とび等の遊びを中心に楽しみ、また地域の伝統行事への参加や奈良をより知るための日帰り行事などを行う。学校や学年の違う友だち同士が遊ぶことでリーダーシップを養い、互いを思いやる心を育てている。</li> <li>●いきいきクラス（大人50歳以上） わらべうたや童謡・唱歌・歌謡曲など様々なジャンルの歌をスタッフの生演奏に合わせて楽しく元気に歌い心の充足を計る。</li> <li>●大人が学ぶわらべうた わらべうた遊びの実践を通して奈良のわらべうたを学び、家庭や地域での活動に生かしてもらおう。</li> </ul>										
事業費（円）											
	歳入				歳出						
予算	市費（指定管理料等）		その他収入（事業収入等）	2,988,000	2,988,000						
決算	市費（指定管理料等）		その他収入（事業収入等）	2,691,334	2,691,334						
事業成果											
アンケートの有無 （事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。）				<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果	別紙添付のこと					
	指標	評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）								
成	参加者数・参加率の達成度	3	少子化の影響やこども園が増えたこと、また小学校の授業数増等の影響で子どもの数は年々減少している。大人が学ぶわらべうた遊びクラスを新規開講し参加者は少ないが、継続要望が多かったため次年度以降も継続的に行う予定。 目標値：300人 実績値：262人								
	参加者満足度	4	アンケート結果では、ほとんどの参加者は内容に満足であると回答。ただ、受講料については高いという意見が何件も見受けられた。								
果	重点対象に対する課題解決につながったか	4	わらべうた遊びやその他の歌や活動を通して、親子や友だちとのふれあいができ、また奈良を知り愛する心を育むことができた。								
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	講師陣での勉強会は常に行い、質の確保や向上に努めている。								
総合評価（自動計算）				4							
参加者や協働相手からの意見				<p>（参加者）アンケートより・1歳の子どもと一緒に通える所は少なく、教室で子どもに向き合える時間を持つことができ嬉しい。（1・2歳児）・家庭ではできない経験をさせてもらえてよかった。安心できる環境で子どもが伸び伸びと過ごることができた。（3歳児）・昔ながらの遊びで体を動かし、遊ぶ楽しさを知ることができた。心や体を育てる遊びをたくさん経験できた。（4・5歳児）・他の学校の友達とできた。コミュニケーションを取れるようになった。まりつきやなわとび、学校ですることの少ない遊びもたくさんできるようになり、また奈良の行事を体験し「奈良通」になった。</p> <p>（協働者）わらべうた教室の開催は、若い世代や子どもたちに大和の伝統文化や歴史を知るきっかけとなっている。方言が多く歌われ、地域愛が生まれる良い機会となっている。また、乳幼児対象クラスでは特に親子ふれあい遊びを豊富に提供している。</p>							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	わらべうたの普及は、設置目的の一つであるがわらべうたを実践する対象の子どもの減少していること、若い世代の多様化、古いものに対する興味の衰え等様々な理由から、わらべうた教室の参加者は年々減少している。しかし、わらべうたの良さを認識し、日々の保育にとり入れている幼稚園・保育園からのわらべうた指導の依頼は毎年多くあるため、今後はアウトリーチを中心に活動を広げていきたい。また指導者の育成が課題である。				講師が幼稚園や保育園に向いてわらべうたを教える「出張わらべうた教室」の事業は、例年数多くの依頼があるため、わらべうたの普及活動における手法の一つとして広げていきたい。大人対象のわらべうた教室の充実化を図り、指導者の養成に繋げていきたい。						
評価											
<p>（奈良市） わらべうたの普及は本施設の根幹となる取組みであり、本事業はそのための基幹事業。こども園・保育園に通う子どもが増え、平日午後の子ども対象教室事業については参加者が減っている。今後は施設を拠点として、わらべうたの指導者を養成していくような取組みに力を入れていく必要がある。</p> <p>（事業視察による委員評価） ・事業のビジョンがあまり見えてこない。予算の制約により意識がいかなくなっているのではないかと。 ・参加者が特定の学校中心となるのは、マンネリ化もあるのではないかと。 ・施設としても事業としても政策上の位置づけが必要。</p>											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		特別コンサート (ミュージックフェスティバル)		施設名	奈良市音声館	
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①	
	基本施策	2-05	文化振興		(5)-①	
	施策	2-05-01	文化の振興			
実施形態	単発 継続		事業開始年	平成30年	実施回数	年1回
日時	平成30年9月23日 (リハーサル 平成30年9月22日)		会場	音声館ホール		
目的と内容	日頃から音楽や舞踊に親しんでいる個人・団体に向け、発表の場を提供し、文化交流の場とすることを目的とする。 器楽演奏・声楽・日本舞踊・ダンスなどの活動発表。1ステージ最大20分、約15組を募る。					
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>
	小中学生	<input type="checkbox"/>	若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>
	その他	<input type="checkbox"/>	音楽愛好者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>
重点対象に対する 課題と取り組み	音楽や舞踊を親しむ市民へ、日頃の練習の成果を発表する場を提供する。誰でも参加可能。					
事業費(円)						
	歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)	61,000		61,000
決算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)	8,000		8,000
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のプロスピリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果	別紙添付のこと	
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	実施初年度とのこともあり出演者の応募が懸念されたが、目標値よりも多くの団体の応募があり応募したすべての団体にフェスティバルに参加していただくことができました。 目標値：15組 実績値：20 ※内1団体キャンセル			
	参加者満足度	4	事前打ち合わせをメール及び電話で行い、前日リハーサルを設けることで当日の進行をスムーズに行うことができ、楽屋も他の団体と一緒にしないようにした事で参加者からの満足度は高かったです。			
	重点対象に対する課題解決につながったか	4	参加者やお客様で今まで音声館のことを知らない方もたくさんおられ、ホールがあることも知らない方がたくさんおられたので、音声館の認知度を高めることができたと思われまます。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	ゆくゆくは質の高いコンサートをできればよいと考えていますが、主旨が気軽に誰でも初心者の方でも参加できるコンサートの機会を提供する事なので、工夫が足りない部分も多々あったと思えます。			
総合評価(自動計算)			4			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) 発表する場を持てたことがよかったとの意見が多数ありました。職員への対応及びフェスティバルの進行もスムーズに進めることができ満足されている事がアンケート結果からもわかりました。来年もぜひ参加したいとお声をたくさんいただいた。 (協働者)				
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	幅広い年齢層の方々に出演していただき、アンケート結果も全体的に良かったので成功であると考えています。今後の課題は、より多くの市民の方々はこのコンサートを知っていただき参加していただくための広報活動に力を注いでいきたいと思います。			出演者の参加費が初年度は安かったため、若干ではあるが出演料をアップしてピアノの調律料金を捻出し質の良いピアノを使用していただくようにしたいです。広報活動に力を入れて前年度よりもたくさんの方に出演していただく、観覧していただく機会を提供できるようにします。		
評価 (奈良市) 市民の音楽・舞踊活動の発表の場として実施している。 主演料は1人1500円からと低めに設定することで、気軽にステージに立てるように工夫している。 今後は、広報に工夫をして、観覧者が増えるように取り組んでいく必要がある。						



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		子ども邦楽教室 ～三味線・尺八・箏～		施設名	奈良市音声館	
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(4)-①	
	基本施策	2-05 文化振興				
	施策	2-05-01 文化の振興				
実施形態	単発 <input checked="" type="radio"/> 継続		事業開始年	三味線（平成21年） 尺八（平成23年） 箏（平成25年）	実施回数	年13回程度
日時	毎月、土曜または日曜、月1～2回		会場	音声館プレイルーム2または和室		
目的と内容	近年、学校音楽教育で必須となった邦楽を手軽に学べる場を提供し、日本の文化を学ぶことを目的とする。プロの邦楽家を講師に招き、邦楽の基礎を学ぶ。また、年1回成果発表の場を設け目標をもって稽古に取り組んでいる。					
重点対象 (複数可)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児	
	小中学生	若者（高・大等）	社会人（40歳未満）	社会人（40歳以上）	高齢者	
	子育て世帯	障がい者	在留外国人	訪日外国人		
	その他	( )				
重点対象に対する 課題と取り組み	尺八・箏…新小学3～6年生を対象 / 三味線…新小学1～6年生を対象 和楽器の基礎を学び、日本の伝統文化に親しむ場を提供する。					
事業費（円）						
歳入						
予算	市費（指定管理料等）	その他収入 (事業収入等)		602,000	歳出	
決算	市費（指定管理料等）	その他収入 (事業収入等)		468,393	468,393	
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果	別紙添付のこと	
指標		評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）			
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	三味線、箏はほとんどが継続受講でそれに加え新規受講生も受け入れた。尺八は楽器の特性もあり現状維持にとどまった。 目標値：50人 実績値：49人			
	参加者満足度	4	受講生やその保護者との会話やアンケート結果からみて、満足度は高い。			
	重点対象に対する課題解決つながったか	4	月1回（尺八は2回の時もあり）の稽古のなかで、邦楽に親しみそれぞれの楽器の基礎を学ぶことができている。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	各教室とも開講から年数が経ち、演奏技術も向上してきたため今年度は「三味線・尺八」においては、館外（ならまち柑子の家他）での演奏機会を設け、活動のPRとともに子どもたちのモチベーションアップにつなげることができた。			
総合評価（自動計算）		4				
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・日本の文化が身近になった。・落ち着いて行動ができるようになった。・礼の仕方など普段習えないことも学んでいる。・音楽に興味を持てるようになった。・楽器にさわれるようになって楽しい。等々の意見をもらった。子どもが教室で学ぶと同時に親も邦楽や日本文化に興味をもったという意見も聞かれた。 (協働者) 子どもたちは皆、楽器に対する興味が大変旺盛であり、楽しんでくれている様子をみると大変嬉しく感じる。演奏の指導と共に、昨今の学校や家庭ではなかなか教えられない礼儀作法もきちんと伝えられるように心がけている。				
総括	評価年度の状況と課題		改善案・次年度以降の目標			
	近年、邦楽が学校でも取り入れられていることや、テレビ等メディアの影響で邦楽に興味を持つ子どもが増えてきている。三味線、尺八に関しては楽器の特性から、子どもが弾きこなすには難しく挫折する子どもが多く出てくるかと心配したが、「基礎」を勉強する教室ということ、また、先生方の一人一人に対する丁寧な指導により継続者が多くいることに手応えを感じる。今後の課題はもう少し実力をつけて、外に向けての活動アピールをしていくことである。		邦楽の楽しさやそこから学ぶ日本文化の素晴らしさを教室以外でアピールできるような、通常の教室以外に単発の催しに参加したり、また教室生以外の一般の子どもたちが参加できるような企画を考えたい。			
評価						
(奈良市) 邦楽に興味を持つ子どもにとって、和楽器を習うことができる貴重な事業となっている。本施設では「わらべうた教室」など、子ども向けの事業を展開しており、職員の間でも活かされている。年に1回の成果発表はあるものの、活動の成果を広く発信できる場を検討していく必要がある。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		新・学園前寄席「桂 吉弥」独演会		施設名	奈良市西部会館市民ホール					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) 一芸術鑑賞等広く市民が文化に接 する機会の拡充に関すること				
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年		実施回数	1回			
日時	平成30年9月22日（土） 14時～16時			会場	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）					
目的と内容	奈良市西部会館市民ホールが地域にある身近な文化芸術発信拠点としての印象浸透を目的に、地域の方に質の高い日本伝統文化芸術に接する機会の提供。									
重点対象 （複数可）	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者（高・大等）	<input type="radio"/>	社会人（40歳未満）	<input type="radio"/>	社会人（40歳以上）	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	その他	（ ）								
重点対象に対する 課題と取り組み	施設として評価してほしい事業対象であるため、地域の多世代に向けた積極的な広報周知活動。									
事業費（円）										
	歳入					歳出				
予算	市費（指定管理料等）	245,880			その他収入 （事業収入等）	892,500			1,138,380	
決算	市費（指定管理料等）	342,950			その他収入 （事業収入等）	818,820			1,161,770	
事業成果										
アンケートの有無 （事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を 誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。）				<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		アンケート結果		別紙添付のこと		
指標			評価 （5点満点）		評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）					
成 果	参加者数・参加率の達成度		5		キャバ305席に対し、302名（収容率99%）の来場者であったことから達成できたと考える。 目標値：255名 実績値：302名					
	参加者満足度		5		大変満足は51%（85回答）、満足48%（80回答）、普通1%（1回答）の結果であったこと から達成できたと考える。					
	重点対象に対する課題解決つながったか		4		学園前周辺が47%（87回答）、奈良市内が27%（50回答）、生駒市と奈良県内21%（39回 答）で95%であった。また、50歳代以上が94%であり、40歳代までの年代が少なかったが、 一定程度の達成ができたと考え。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4		職員の対応について大変満足が17%（31回答）、満足が60%（111回答）であった。ホール 施設について大変満足が17%（30回答）、満足が60%（104回答）であった。また、本日の 催事を誰かに進めたいかは91%（126回答）であったことから、一定程度の達成ができたと思 える。					
総合評価（自動計算）					5					
参加者や協働相手からの意見				（参加者） ・大阪まで行かなくても学園前で楽しい落語を聞けるのは大変うれしいことです。長く続けてほしい。 ・昔から米朝さんの落語が好きで（関西人として）聞いてきましたが、米朝事務所の中でも、吉弥さんのファン です。大阪へ出なくても、駅近くのこのホールで吉弥さんの独演会の落語が聞けるのでうれしいです。定期的 にあることを願っています。 （協働者）						
総括	評価年度の状況と課題					改善案・次年度以降の目標				
	50歳～70歳以上の来場者が94%、学園前周辺、奈良市内、生駒市からの来場者 が81%、西部会館内チラシ&ポスター、新聞折込、口コミ、奈良市広報誌での公 演認知が85%の結果であったことより、奈良市西部会館市民ホールが地域にある 身近な文化芸術発信拠点としての印象浸透を目的に、地域の方に質の高い日本伝統 文化芸術に接する機会の提供ができたと考え、40歳以下の集客が課題と考え る。					アンケートからも落語公演を希望される回答が多く、自由記述でも同様の内容が見 られた。そのことから、来年度自主事業案に落語公演を計画する方向で調整したい と考える。 GAKUTOMO会員（友の会）へのDMおよび新聞折込での告知により、一定数の 来場が見込めると考えるが、若年層および青年層に向けた情報接触機会の工夫を研 索し、多様な世代に対し日本の伝統文化芸術に接する機会づくりを目標としたい。				
評価										
（奈良市） 落語公演は観覧者数も多く、アンケート等によるニーズも多い。 ただし、来場者の年齢層は高く、若い世代への訴求力は低い。 他施設でも同様の企画があるため、今後は若い世代に対する工夫などを行うことで差別化を図ることが必要である。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		学園前アートフェスタ2018			施設名	奈良市西部会館市民ホール				
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化			文化振興計画 該当項目	9) 一文化に係る交流の促進に関するこ				
	基本施策	2-05 文化振興								
	施策	2-05-01 文化の振興								
実施形態	単発	継続	事業開始年	平成27年		実施回数	2日間12演目			
日時	平成30年11月3日（土）～4日（日） 10時～20時			会場	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）					
目的と内容	学園前街育プロジェクト実行委員会が主催する「学園前アートフェスタ2018」の1事業として、学園前ホールを活用した地域住民参加型ステージプログラムの実施運営を担うと共に、学園前地域の多世代間の文化交流・振興を目的とする。									
重点対象 （複数可）	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者（高・大等）	<input type="radio"/>	社会人（40歳未満）	<input type="radio"/>	社会人（40歳以上）	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
その他	（ ）									
重点対象に対する 課題と取り組み	奈良市学園南地区自治連合会、奈良市生涯学習財団、西部公民館、大和文華館、中野美術館、浅沼組、希塚山学園、GALLERY GM-1との協同連携、並びに事業コンセプトに沿ったステージプログラム構築と新たな地域アーティストの発掘									
事業費（円）										
	歳入				歳出					
予算	市費（指定管理料等）	170,000		その他収入（事業収入等）	0		170,000			
決算	市費（指定管理料等）	124,666		その他収入（事業収入等）	0		124,666			
事業成果										
アンケートの有無 （事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。）				<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	アンケート結果	別紙添付のこ				
	指標	評価 (5点満点)	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）							
成 果	参加者数・参加率の達成度	5	2日間で12演目を実施し669名（収容率111%）の来場者であったことから、達成できたと考える。 目標値：650名 実績値：669名							
	参加者満足度	5	大変満足と満足が各44%（各14回答）、普通とやや不満が各6%（各2回答）の結果であったことから達成できたと考える。							
	重点対象に対する課題解決つながり	4	学園前周辺が55%（16回答）、奈良市内が21%（6回答）、生駒市が17%（5回答）、京都府内と大阪府内が各3.5%（各1回答）であった。また、50歳代以上が93%（27回答）、40歳代と30歳代が各3.5%（各2回答）であり、小学生以下が2日間で58名の来場であったことから、一定程度の達成ができたと考ええる。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	職員の対応について大変満足が34.5%（11回答）、満足が31%（10回答）、普通が34.5%（11回答）であった。ホール施設について大変満足が31%（9回答）、満足が45%（13回答）、普通が24%（7回答）であった。また、本日の催事を誰かに勧めたいかは100%（26回答）であったことから、一定程度の達成ができたと考ええる。							
総合評価（自動計算）					5					
参加者や協働相手からの意見				（参加者） ・立派なホールで、立派な芸、大満足。 ・良いホールで、すてきな催しなのに、観客が少なくて残念。宣伝が少なく、もっと市民に知ってほしい催しですね。来た人は、満足するの。 （協働者）						
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	市民参加型舞台として参加団体を公募し、制作度合いの高い作品や演奏スキルの高い奏者、ダンス、コーラス、舞踊、吹奏楽など、日頃の練習成果を発表する団体の出演で2日間の構成を行った。出演された団体やそれを観劇された方々の満足度は、概ね高評価であったと考える。一方、地域点在回遊型学園前アートフェスタ各会場での現代アート展示と、学園前ホールで実施したコンテンツと連携性・運動性が乏しく、アートフェスタ全体として、学園前ホールでのコンテンツを含めた実施内容の構成が今後の課題であると考ええる。				現代アートを媒介に街育を目的とする学園前アートフェスタにおいて、各会場での現代アート展示と、学園前ホールでのコンテンツの連携運動性に関し、学園前街育プロジェクト実行委員会にて「学園前アートフェスタ」の中で学園前ホールの役割を協議し、次年度ではテーマ性のあるコンテンツ構築を目指したいと考える。					
評価										
（奈良市） 市民の活動発表の場として、地域主体のイベント企画のひとつとして実施している。「学園前アートフェスタ」自体は地元自治会などが主体となり積極的に活動しているが、現代アートを中心とした企画内容であることから、テーマの統一性にやや欠けており、今後の課題である。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		1996カルテット ザ・ビートルズ・クラシックス		施設名	奈良市西部会館市民ホール					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1) 市民の文化に対する意識の高揚に関すること					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成31年	実施回数	1回				
日時	平成31年2月16日(土)		会場	奈良市西部会館市民ホール（学園前ホール）						
目的と内容	女性クラシックカルテットと地域有志合唱者との共演による市民が主役となる文化事業の場を提供することにより、市民の文化芸術に対する創造意欲の増進、地域における新しい文化芸術の育成機会の創出を目指す。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	クラシックとビートルズに対し関心の高い層を事業ターゲットとして定めているため、地域有志合唱者への情報提供を広報以外に、学園前ホールでの演奏会等ご利用者へも情報提供も図る。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	293,760		その他収入(事業収入等)	585,000		878,760			
決算	市費(指定管理料等)	415,216		その他収入(事業収入等)	564,926		980,142			
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設定水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		アンケート結果		別紙添付のこと			
成 果	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
	参加者数・参加率の達成度	4	262名(収容率87.3%)の来場者であったことから達成できたと考える。 目標値:195名 実績値:262名							
	参加者満足度	5	大変満足は53%(49回答)、満足45%(42回答)、普通2%(2回答)の結果であったことから達成できたと考える。							
	重点対象に対する課題解決につながったか	4	学園前周辺が30%(31回答)、奈良市内が22%(22回答)、生駒市が10%(10回答)、奈良県内が5%(5回答)であった。また、70歳以上が33%(34回答)、60歳代が38%(39回答)、50歳代が13%(14回答)、40歳代が10%(10回答)、30歳代が2%(2回答)、10歳代が4%(4回答)であったことから、多世代の集約が一定程度の達成ができたと考え。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	職員の対応について大変満足が23%(23回答)、満足が57%(58回答)、普通が20%(20回答)であった。ホール施設について大変満足が21%(22回答)、満足が58%(59回答)、普通が20%(20回答)、やや不満が1%(1回答)であった。また、本日の催事を誰かに進めたかには90%(63回答)であったことから、一定程度の達成ができたと考え。							
総合評価(自動計算)		4								
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・一度は耳にしたことのある曲ばかり、楽しめました。身体全体を使ったノリのよい力強い演奏は素晴らしいかったです。子どもたちの歌声も素敵でした。 ・クィーンのカバー、タイムリーでよかったと思います。帝塚山小の合唱部とのコラボもよかった。 (協働者)								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	帝塚山小学校合唱部が学園前ホールにおいてアーティストと共演する機会をつくることにより、地域における新しい文化芸術を担う次世代の育成機会創出の一端を担えたのではないかと考える。今回は日程調整がスムーズに進んだが、小学校側の授業や行事等との兼ね合いを考慮し、早めの日程を含めた調整が必要であると考え。				平成30年度自主事業アンケート集計による来場者年齢構成は、50歳台以降が86%を占めた結果から、帝塚山小学校をコアに地域の小中学校との連携を図ることにより、若い世代に対する文化意識の高揚ならびに文化芸術を担う次世代の育成機会の創出に寄与するため、今回の催事のような機会づくりを考えていきたい。					
評価										
(奈良市) 音楽公演イベントに、本施設に隣接する帝塚山小学校の合唱部にも共演いただいた。単にアーティストを呼び公演をするだけでなく、地域との関わりを事業に組み込むことで、事業をより意義深いものとした。一方で、若い世代の来場者は少なく、今後の課題である。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		川島小鳥写真展 「つきのあかり あいのさざし〜尾野真千子と川島小鳥〜」		施設名	入江泰吉記念奈良市写真美術館					
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目				
	基本施策	2-05		文化振興						
	施策	2-05-01		文化の振興						
実施形態	継続		事業開始年	平成4年		実施回数	1回			
日時	平成30年6月30日（土）～8月26日（日）			会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館					
目的と内容	市民をはじめ奈良を訪れる多くの観光客に対し、芸術性の高い写真展を鑑賞していただく企画展。 今回は若手写真家の中でも日本写真界の最先端で活躍する川島小鳥さんが、奈良県出身で日本を代表する俳優の尾野真千子さんを本展のために撮りおろした写真展。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生		若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯		障がい者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人	<input type="checkbox"/>		
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	特に若者(高・大等)～社会人(40歳未満)を対象としている。その多くが利用しているSNS等を活用し、いかに広く周知できるかが課題で、広報においてWEBページをはじめFacebookやInstagram等に重点を置く。									
事業費(円)										
	歳入					歳出				
予算	市費(指定管理料等)	1,673,000			その他収入(事業収入等)	0			1,673,000	
決算	市費(指定管理料等)	1,167,000			その他収入(事業収入等)	0			1,167,000	
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有		アンケート結果		別紙添付のこと		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	目標値5,000人の観覧者数に対し、4,302人の観覧者数で、達成率は86.0%であった。 目標値：観覧者数 5,000人 実績値：4,302人							
	参加者満足度	3	アンケートを実施し、58名から回答があった中、約84.5%の方から展示内容について「良い」以上の回答が得られた。							
	重点対象に対する課題解決につながったか	4	著名な写真家である川島氏が新作撮りおろし作品の帯写体(モデル)に女優・尾野真千子氏を起用したことで、飛躍的に注目度が上がった。また、SNS等で情報を発信すると、検索数の増加やSNS利用者による反応もよかった。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	出品作家本人によるギャラリートークを開催し、撮影秘話や作品に対する思いなど、より詳しい解説を観覧者に提供することができた。							
総合評価(自動計算)		4								
参加者や協働相手からの意見		(参加者) アンケートより *モノクロ写真が良かったです。展示も見やすく、どの面から見ても楽しめるように思えました。 *川島さんはモデルの魅力・表情を引き出すのが上手な方だと思います。写真を勉強中ですので、今後ポートレートやスナップを撮る時の参考にさせていただきます。 (協働者) *出品作家からは、これからも国内のみならず海外にも目を向けた企画展の開催を望むとのこと意見をいただきました。								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	以前より、入江作品のみならず、多様な写真芸術(作品)の展示を望む声が多かったため、現在日本の若手写真家で人気、実力がともにある川島小鳥氏を取り上げ撮りおろし新作展を開催したところ、注目度は飛躍的にあがった一方で、入江泰吉作品のみの展覧会を望むご意見も多数いただきました。今後も、国内外で活躍している写真作家と入江泰吉作品展の同時開催を展開していくが、その作品数のバランスが課題である。				一部アンケートにも、入江泰吉作品のみの展覧会を望む声があるのも事実であるが、大半は、他の作家と入江泰吉作品の同時開催を望んでいるのが現状である。写真を専門とする数少ない美術館として、写真に特化した展示構成で、奈良のみならず日本の写真芸術・文化の発信拠点となるべく事業を展開していく。					
評価										
(奈良市) 全国的に人気が高い写真家による作品展ということもあり、観覧者数は目標者数に届かなかったものの、ギャラリートークなどは満席であった。本施設は、入江泰吉氏や奈良に関する写真の保存・展示が第一義ではあるものの、写真文化の振興という目的のもと、本企画のような取り組みを行うことで、より多くの方に写真という芸術の魅力を発信することに積極的に取り組むことが求められる。										



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		入江泰吉「奈良を愛した文士と高畑界限」展			施設名	入江泰吉記念奈良市写真美術館				
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ④			
	基本施策	2-05		文化振興						
	施策	2-05-01		文化の振興						
実施形態	継続		事業開始年	平成4年		実施回数	1回			
日時	平成30年6月30日（土）～10月21日（日）			会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館					
目的と内容	JR西日本が主催する「関西歴史ちよこつと旅」が奈良・高畑界限を特集するにあたって、その関連事業として開催。 入江泰吉とゆかりのある文人墨客にスポットを当て高畑界限の風物を紹介する写真展。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	JR西日本の関連事業ということで、本展覧会を広く周知できると考えている。特に市外在住者や観光客、また外国人にご来場いただくために積極的に広報していく。									
事業費(円)										
					歳入		歳出			
予算	市費(指定管理料等)	554,000		その他収入 (事業収入等)	0		554,000			
決算	市費(指定管理料等)	495,000		その他収入 (事業収入等)	0		495,000			
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有		アンケート結果		別紙添付のこと		
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度		3	目標値9,400人の観覧者数に対し、8,614人の観覧者数で、達成率は91.6%であった。 目標値：観覧者数 9,400人 実績値：8,614人						
	参加者満足度		3	アンケートを実施し、128名から回答があった中、約86%の方から展示内容について「良い」以上の回答が得られた。						
	重点対象に対する課題解決つながったか		3	JR西日本様の事業と連携することで、JR沿線やJR西日本関係施設で広報効果が得られた。このことで県外からの誘客につながったと感じた。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	展示テーマである奈良と文学の関わりあいについて、専門の研究者からの助言を得ることができた。このことでより専門的な展示構成となり、観覧者の満足度にもつながった。						
総合評価(自動計算)			3							
参加者や協働相手からの意見			(参加者) アンケートより * 入江作品とともに展示されていた書物(文章)を読むことで、より楽しめた。 * 高畑と文士展、興味深く拝見しました。入江氏の交流圏の広さがうかがえました。 * 入江氏の奈良の作品も美しかったし、会津ハリーの歌や解説もよかったです。 (協働者) * 関連イベントの講師からは、事業を続けることで奈良のPRや高畑界限の活性化にもつながるとの助言をいただいた。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	広報や広告にかかる予算が少ないため、大々的に事業を広報できていないのが課題であったが、今回、JR西日本様からのお声掛けにより連携事業を展開することで、大きな広報効果が得られた。しかし、常にそういった連携事業ができるわけではないので、当館から企業や団体に働きかけ連携事業を実現していきたいと考える。				広報の拡充は当館のような地方の小さな美術館にとって予算確保や賛助団体確保は指定管理者だけの働きかけでは困難を極めるが、美術館の設置者である奈良市ハックアップも得ながら今後も企業や各種団体に連携協力を申込み、全国規模の展覧会開催を実現したいと考える。					
評価										
(奈良市) 入江泰吉氏の作品とともに、「高畑」という地域にスポットをあてた企画。 JR西日本「関西歴史ちよこつと旅」の関連事業としても位置付けられており、周辺の寺院などとともに紹介され、来場者数にも一定の効果があったと思われる。 今後も企業や地域との関わりを持ちながら事業展開を行っていくべきである。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート (平成30年度)

事業名		近現代かな書の流れ③ 現代かな書の成立		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館						
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①②、(3)-①②③④、(4)-①④						
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興								
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年	実施回数						
日時	平成30年10月13日(土)～平成31年1月14日(祝・月)			会場	奈良市杉岡華邨書道美術館						
目的と内容	奈良市杉岡華邨書道美術館条例にある当館の主たる事業(条例3条第1号及び第2号)として展覧会事業を行う。奈良市民及び観光客、書芸術愛好家に杉岡華邨作品を中心とした近現代の書を鑑賞して頂くことにより、市民文化並びに書文化振興に寄与することを目的とする。近現代のかな書の歴史を追うシリーズ展の第3期。										
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	( )									
重点対象に対する課題と取り組み	市民文化の振興のため、市内在住の社会人・高齢者を重点対象とする一方で、書道文化振興のため広く市外在住者、観光客も重点対象としている。少子高齢化による書道人口減少が観覧者数減少に影響している。										
事業費(円)											
繰入											
予算	市費(指定管理料等)	1,120,000		その他収入(事業収入等)	0		繰出	1,120,000			
決算	市費(指定管理料等)	887,676		その他収入(事業収入等)	0		繰出	887,676			
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のプロスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無		アンケート結果		別紙添付のこと			
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度		3		参加者数3,984人、達成度は79.7% 目標値：5000 実績値：3984						
	参加者満足度		3		日本芸術院会員の鈴木翠軒や書道史、古筆研究でも活躍し戦後書壇の復興に尽力した飯島春敬をはじめとする現代かなのさまざまな表現に挑戦した作家の書が一堂に紹介されたため観覧者の評価は高かった。						
	重点対象に対する課題解決つながり		3		市民だけでなく市外在住者、観光客も広く取り込むことが出来た。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4		書道文化研究者や日展会員以上の現役作家の先生方、成田山書道美術館や五島美術館、田原市博物館の協力を頂き、奈良市杉岡華邨書道美術館学芸員が担当することで展覧会の質の確保・向上を行った。						
総合評価(自動計算)				3							
参加者や協働相手からの意見				(参加者) 鈴木翠軒の「三條の上で…」や森田竹華の「花の寺」などの名品が鑑賞できる貴重な機会だった。「近現代かな書の流れ」シリーズを通して明治以降のかな書の歴史を代表的な作家と作品でたどることのできる展覧会だった。 (協働者) なかなか公開されることのない作品が展覧されたことで、作品の所在などの確認が出来てよかった。こうした展覧会で紹介されることが、物故作家の書業が改めて顕彰されるよい機会となっている。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	本展は近現代のかなの歴史を振り返るシリーズ展の第3期であり、かな書の歴史を彩った作家を一堂に紹介し書道界では一様に好評を得る内容であったが、観覧者数は目標を大きく下回る結果となった。これは、少子高齢化等による書道人口の減少傾向であるため、恒性的に観覧者数の減少傾向が続いていることや展覧が全て物故の作家であったため組織的な動員に繋がりが難しかったことなどが要因として考えられる。				かな書を中心とした現代書道作品による企画展は、より質の高い作品の鑑賞機会を提供するとともに、関係団体の協力や一般観覧者への訴求力など総合的に考慮する必要がある。また、少子高齢化により書道人口はさらに減少傾向が続くと考えられ、美術館単独の取り組みでは限界がある。書道文化全体の発展のためには他の団体などと連携しつつ、書道文化のすそ野を広げる活動も重要な課題である。						
評価											
(奈良市) 観覧者数が減少傾向にあることは書道人口の減少も一因にあげられるが、書道展示自体、敷居が高いと感じられていることも考えられる。出品作品の質は非常に高いため、魅力を来館者に伝える工夫が求められる。 (視察による委員評価) ・特定の人物を顕彰する意味がある施設については、政策上の交通整理が必要。 ・現場では展示の質を下げないように努力していると感じられるが、政策的な位置づけがされていない。 ・「書」という分野は、都市文化振興装置としての役割を果たすことができるのではないか。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		近現代かな書の流れ③ 現代かな書の成立		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館						
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2)-①②、(3)-①②③④、(4)-①④						
	基本施策 施策	2-05-01 文化振興 文化の振興									
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年		実施回数					
日時	平成30年10月13日(土)～平成31年1月14日(祝・月)			会場	奈良市杉岡華邨書道美術館						
目的と内容	奈良市杉岡華邨書道美術館条例にある当館の主たる事業（条例3条第1号及び第2号）として展覧会事業を行う。奈良市民及び観光客、書芸愛好家に杉岡華邨作品を中心とした近現代の書を鑑賞して頂くことにより、市民文化並びに書文化振興に寄与することを目的とする。近現代のかな書の歴史を追うシリーズ展の第3期。										
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	市民文化の振興のため、市内在住の社会人・高齢者を重点対象とする一方で、書道文化振興のため広く市外在住者、観光客も重点対象としている。少子高齢化による書道人口減少が観覧者数減少に影響している。										
事業費(円)											
歳入											
予算	市費(指定管理料等)	1,120,000			その他収入(事業収入等)	0			歳出		1,120,000
	決算	市費(指定管理料等)	887,676			その他収入(事業収入等)	0			887,676	
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無		アンケート結果		別紙添付のこと			
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3		参加者数3,984人、達成度は79.7% 目標値：5000 実績値：3984							
	参加者満足度	3		日本芸術院会員の鈴木翠軒や書道史、古筆研究でも活躍し戦後書壇の復興に尽力した飯島春敬をはじめとする現代かなのさまざまな表現に挑戦した作家の書が一堂に紹介されてため観覧者の評価は高かった。							
	重点対象に対する課題解決つながり	3		市民だけでなく市外在住者、観光客も広く取り込むことが出来た。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4		書道文化研究者や日展会員以上の現役作家の先生方、成田山書道美術館や五島美術館、田原市博物館の協力を頂き、奈良市杉岡華邨書道美術館学芸員が担当することで展覧会の質の確保・向上を行った。							
総合評価(自動計算)		3									
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) 鈴木翠軒の「三條の上で…」や森田竹華の「花の寺」などの名品が鑑賞できる貴重な機会だった。「近現代かな書の流れ」シリーズを通して明治以降のかな書の歴史を代表的な作家と作品でたどることのできる展覧会だった。</p> <p>(協働者) なかなか公開されることのない作品が展覧されたことで、作品の所在などの確認が出来てよかった。こうした展覧会で紹介されることが、物故作家の書業が改めて顕彰されるよい機会となっている。</p>									
評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標							
総括		本展は近現代のかなの歴史を振り返るシリーズ展の第3期であり、かな書の歴史を彩った作家を一堂に紹介し書道界では一様に好評を得る内容であったが、観覧者数は目標を大きく下回る結果となった。これは、少子高齢化等による書道人口の減少傾向であるため、慢性的に観覧者数の減少傾向が続いていることや出展が全て物故の作家であったため組織的な動員に繋がりにくかったことなどが要因として考えられる。				かな書を中心とした現代書道作品による企画展は、より質の高い作品の鑑賞機会を提供するとともに、関係団体の協力や一般観覧者への訴求力など総合的に考慮する必要がある。また、少子高齢化により書道人口はさらに減少傾向が続くと考えられ、美術館単独の取り組みでは限界がある。書道文化全体の発展のためには他の団体などと連携しつつ、書道文化のすそ野を広げる活動も重要な課題である。					
評価											
(奈良市)											
観覧者数が減少傾向にあることは書道人口の減少も一因にあげられるが、書道展示自体、敷居が高いと感じられていることも考えられる。出品作品の質は非常に高いため、魅力を来館者に伝える工夫が求められる。											
(視察による委員評価)											
<ul style="list-style-type: none"> <li>特定の人物を顕彰する意味がある施設については、跡継ぎの交通整理が必要。</li> <li>展示の質を下げないように努力していると感じられる。政策的なリボタージュが感じられる。</li> <li>「書」という分野は、都市文化振興装置としての役割を果たすことができるのではないかと。</li> </ul>											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		書道実技講座		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館	
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目
	基本施策	2-05		文化振興		
	施策	2-05-01		文化の振興		
実施形態	単発 <b>継続</b>		事業開始年	平成25年		実施回数
日時	平成30年12月9日			会場	奈良市杉岡華邨書道美術館	
目的と内容	市民の方々に生涯学習の一環として自己を磨く機会を持っていただき書道文化及び市民文化振興に貢献することを目的とする。書の初心者でも簡単に参加できる形式で、年賀状など生活で活かせる書の実技を体験できる講座を開催する。					
重点対象 (複数可)	市民	○		市外在住者	観光客	地域住民
	小中学生			若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)
	子育て世帯			障がい者	在留外国人	訪日外国人
	その他	( )				
重点対象に対する 課題と取り組み	市民文化の振興のため市民を重点対象として実施している。施設の制約により参加可能人数が少なく、広報など対象を限定しているが、平成29年度は定員に達しなかった。					
事業費(円)						
歳入						
予算	市費(指定管理料等)	0		その他収入(事業収入等)	22,000	歳出
決算	市費(指定管理料等)			その他収入(事業収入等)	11,245	11,245
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有・無		アンケート結果	別紙添付のこと
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)		
成  果	参加者数・参加率の達成度		1	参加者総数10名、参加率達成度50%。 目標値：20 実績値：10		
	参加者満足度		3	書道経験者から全くの未経験者まで、それぞれに合わせた指導をして頂き、参加者の大変満足度は高かった。		
	重点対象に対する課題解決つながったか		3	重点対象である市民課題解決に一定の効果があつたと考えられる。		
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		3	講師は毎年、書道教育経験豊富な専門の先生(平成30年度は日展会員の方)に依頼している。		
総合評価(自動計算)			3			
参加者や協働相手からの意見			(参加者) いろいろな資料をお手本を参考に年賀状を書くことが出来、また指導も受けられいい体験ができた。初心者だったのが年賀状を自分で書いて楽しかった。 (協働者) 楽しんで書いてもらうことが出来た。書に親しむきっかけになればありがたい。			
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	会場が非常に狭く、また丁寧な指導を行うために受講者数は各回10名の2回で計20名とかなり少数となっている。告知が比較的早い時期となったことや特定の先生に講師をお願いしていたこと、また奈良マラソン開催日に重なった影響で参加率が低下したと考えられる。			施設の状況や講師の先生方の負担等も考えつつ、広報の充実による参加者の確保と、満足度の高い講座となるよう内容の充実を検討していきたい。		
評価						
(奈良市) 施設の構造上、定員が少なくなってしまうものの、参加率が低いことが課題。また、市内で大きなイベントがある日は交通面などで、参加しにくい環境となる。企画段階での情報収集を行っていく必要がある。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		書道文化講座		施設名	奈良市杉岡華邨書道美術館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1)-②③、(4)-①④					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発	<b>継続</b>	事業開始年	平成12年	実施回数	2～3回				
日時	平成30年6月23日、11月17日 平成31年3月9日		会場	奈良市杉岡華邨書道美術館						
目的と内容	企画展覧会出展者等の作品や制作論の講演、さらには書のみならず広く芸術文化に関わる講演を開催することで、書道愛好家の方に書道文化をより深く理解して頂くと共に、市民に生涯学習の機会を持っていただき書道文化及び市民文化振興に貢献することを目的とする。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	市民文化の振興のため市民、市外在住者を問わず実施している。多くの参加者を集めるため、特定の書道団体の方々に依存してしまっている。									
事業費(円)										
			歳入		歳出					
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	284,000	284,000					
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	269,390	269,390					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有・無	アンケート結果	別紙添付のこと					
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	参加者総数197名、参加率達成度82.0%。 目標値：240 実績値：197							
	参加者満足度	3	初となる切手原画展にあわせた切手の話や、企画展出品者にまつわる解説的な講演、さらには華邨の書業における師の影響や精神的な背景に迫るような内容など、興味深い内容だったため参加者の満足度は一様に高かった。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	3	市民、市外在住者を問わず重点対象に対する課題解決に一定の効果があったと考えられる。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	それぞれの講座ごとに、その分野で活躍されている専門の方に講演を依頼しているため質の確保はなされている。							
総合評価(自動計算)		3								
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者) 普段の書とは全く違う珍しい切手の話が聞いて面白かった。 現役作家の先生から見た先人の書の解説やエピソードが興味深かった。 杉岡華邨先生の作品の根拠にある思想や哲学などについても知ることが出来て作品鑑賞の参考になった。</p> <p>(協働者) 他の美術館等で切手に興味を持ってもらえる機会となった。 前館長からの最後の依頼だったので話すことができてよかった。</p>								
総括	評価年度の状況と課題		改善案・次年度以降の目標							
	今年度の書道文化講座はそれぞれの分野の最高レベルの講師に講演をして頂き内容的には大変充実したものとなったが、普段の書道美術館とはかけ離れた内容であったり、関東を中心に活躍されている方であったり他の書道界での行事等の影響もあり、受講者数的には十分とは言えなかったが。		今後も新たな受講者を得られるような様々な分野の講師をお招きして、参加者の満足度と参加者数の増加を目指しつつ、書に興味を持つきっかけとなるような書道文化講座を企画開催していきたい。							
評価										
(奈良市) 書道愛好者を中心に一定の参加者数を得ることができた。 一方で、書の興味を持つ人を増やすためには、愛好者以外でも気軽に参加できるような企画上の工夫も検討していく必要がある。										



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		各種お茶会の開催		施設名	文化振興課 名勝大乗院庭園文化館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2) -④、(14) -①					
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興							
実施形態	単発 <b>継続</b>	事業開始年	平成22年	実施回数	茶会 年7回					
日時	みどり会4/29、9/17 庭園観賞茶会6/10、11 /11 燈花会茶会8/10,11 観月の夕べ茶会9/ 24		会場	茶会：館内和茶室						
目的と内容	庭園と深い関係のお茶会を実施する。当文化館のお茶室を有効活用する。幻想的な燈花会とお茶会を同時開催する。またいにしえのお庭の催しとして観月の夕べを行いお茶会を同時開催する。（共催）									
重点対象 (複数可)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民	○	未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)	○	社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者	○	在留外国人	○	訪日外国人	○		
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	日本の文化に触れる機会として対象者はできるだけ幅広く参加いただきたい。みどり会の気軽なお茶会では特に海外の留学生にも参加いただけるようにしたい。幅広い対象者にどのように告知するかが課題と考えたい。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	42,000	その他収入 (事業収入等)	90,000	132,000					
決算	市費(指定管理料等)	61,300	その他収入 (事業収入等)	73,500	134,800					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有(秋の茶会で実施)	アンケート結果	別紙添付のこと					
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度	3	春、秋の庭園観賞茶会目標86に対し85人、燈花会目標86に対し62人、観月の夕べ目標60に対し65人、みどり会茶会480に対し440人 燈花会は前年の数値は超えたが改善必要 目標値：全体のお茶会参加者712人 実績値 652人(目標値の92%)							
	参加者満足度	4	アンケートの結果からも概ね満足いただいている。無料のみどり会茶会には子供、外国人の参加を得て盛況							
果	重点対象に対する課題解決につながったか	4	幅広い対象者を得る為に奈良県ビジターズビューローの案内所に英語を併記したチラシを設置、奈良市の駅観光案内所には重点的に再配布を行った結果特のみどり会の無料茶会に参加いただけ							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	みどり会は気軽に参加しやすい雰囲気づくりができています。またそのほかの茶会については8名前後の奈良市茶華道連盟の方に丁寧にお願いいただいている。							
総合評価(自動計算)				4						
参加者や協働相手からの意見			<p>(参加者) アンケートから概ねお客様に満足いただいている。感想では「お輪や道具の説明が良かった」、「丸窓からの景色が良かった」など満足の声が多かった一方で開催情報を多くのルートで流して欲しいとの指摘があり反省の為の貴重な意見もいただけた。</p> <p>(協働者) 庭園観賞茶会、観月の夕べ、燈花会等の有料茶会は指定管理のスタートからお世話になっており、いつも快くご協力いただいている。やはりお客様が一定以上参加いただけた場合には喜んで頂いており、今年は庭園観賞茶会、燈花会のお茶会で前年をいずれも超えたので感謝いただけた。</p>							
評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
<p>過去に盛況のみどり会お茶会や観月の夕べのお茶会では天候に左右されることもあるので仕方ない考える。一方で当施設の催しの中で有料のお茶会は集客で最も苦労している状況に置かれている。現在の告知はしみんだより、JR奈良駅デジタルサイネージ、奈良ホテルホームページの他催しチラシの配布を行っているところ、今年は庭園観賞お茶会、燈花会お茶会で前年を超えたことは良かった。</p>				<p>今年度はこれから発行の庭園案内チラシに併せて、催しチラシの配布に改善を図っていきたい。特に重点場所への再配布や英語併記のチラシの設置などを目標として催しへの参加者、当館入館者の回復を図りたい。</p>						
評価										
(奈良市)										
春から秋にかけて開催しており、季節折々の庭園の魅力を活かした取り組みである。子どもや外国人などさまざまな人が参加しており、生活文化の振興に寄与している。一方で単なる観光イベントではなく、文化イベントとしての意義を深めていく必要がある。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		庭園講座・庭園研究講座		施設名	文化振興課名勝大乗院庭園文化館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1)-②、④					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発 <b>継続</b>	事業開始年	平成23年	実施回数	庭園講座2回（15,16回目） 庭園研究講座1回（6回目）					
日時	庭園講座5/19、11/3 庭園研究講座10/28		会場	大乗院庭園文化館内2回、東大寺龍蔵院庭園1回						
目的と内容	中世の名勝庭園文化施設として日本の庭園文化を紹介する講座を開催したい、当庭園の理解を深めて誘客を図るとともに新しい庭園研究などの情報を提供して奈良の庭園文化の紹介に繋げたい。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯		障がい者		在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人			
その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	受講者の年齢層は中高年の方が多いが30~40代の方が増えてきた。ターゲットは幅広い構成が良いと思われる。今後在留外国人の方の参加も期待して支援センターなどに声かけしたい。									
事業費(円)										
歳入										
予算	市費(指定管理料等)	45,000	その他収入(事業収入等)	36,000	歳出					
決算	市費(指定管理料等)	36,422	その他収入(事業収入等)	30,400	81,000					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有		アンケート結果			別紙添付のこと		
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度		4	庭園講座参加者47人(98%) 庭園研究講座32人((133%) アンケート回収率平均82% 目標値: 受講者数③講座計72名(1回24人) 実績値: 79人(110%)						
	参加者満足度		5	庭園講座、庭園研究講座共にアンケートの感想は大変満足されている。特に庭園研究講座では当庭園の保存に尽力された森蔵が作庭の龍蔵院を見学しながらの講演は住職、庭園研究者、庭園管理者の講演会となり貴重な講座が実現された。						
	重点対象に対する課題解決つながったか		3	受講者の中で造園に携わる方に若い方が多く年齢構成が幅がある。外国人については講師にフランス出身の方を得たが受講者を得るまでにはいけなかった。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4	庭園講座は森蔵に師事され、海外で日本庭園を作庭されるなど活躍の作家で好感度も高い。庭園研究講座は奈良文化財研究所の協力を得て、新鮮で興味深い内容となっている。						
総合評価(自動計算)			4							
参加者や協働相手からの意見			<p>(参加者) 庭園講座はタイトルが「日本庭園の現場から」と題して、「竹垣」、「庭の石造物」をテーマとして庭の一部分から全体に興味があり、立体的で再発見できたとの感想、意見が多かった。また庭園研究講座では受講希望が定員を超え、抽選で受講者が決まったほどで人気が高く、現場に触れながらの講座の内容も高い評価を得ることができた。</p> <p>(協働者) 庭園講座は年2回実施して今年で15,16回目となる。担当講師は一人で8年間続いている。続くこともひとつの選択としてそのような方を得ていることに感謝している。庭園研究講座は当館行事の文化サロンと併せて奈良文化財研究所に協力をいただきながら毎年実施している。奈文研にバックアップいただくことが大乗院庭園の新たな発見につながっており、現在は快くご協力いただいている。</p>							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	今年度は文化館の外に出て庭園見学講座ができたことで、受講者が前年から10人増えて79人となったことは質の高い内容と評価したい。但し外での見学講座は9年間で21回の実施となっており、毎年実施できるか難しい。今後の課題とした。集客について現場見学講座はしみんだより、JR奈良駅サイネージ、チラシ配布などで定員は超えることができているが、当館の講座の集客力を挙げていくことが課題。				庭園講座の必要性は受講者が多いことだけが目的ではなく、長い目で継続することのほうが重要と考えていきたいところもあるので講座スペース(15畳)から考えて20人確保できれば受講者が少ないとの印象は無いと思う。2年前後に一度の外での庭園見学講座を行いたい。					
評価										
(奈良市) 参加者数の増加を狙い、施設外での講座を実施し、成果を得ることができた。しかし、一方で施設利用・施設開催イベント参加へとつながるようにフォローしていかなければ、施設外で事業展開を行うことの意味が失われてしまう。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		近隣文化施設との連携事業		施設名	文化振興課名勝大乗院庭園文化館					
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(2)-①、③、④					
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	単発	継続	事業開始年	平成22年度	実施回数	各施設年1回 計3回				
日時	書道美術館「華邨の親しみやすいかな」8/1~26、 「興福寺中金堂落慶記念・入江泰吉の興福寺展」12/ 12~1/20、奈良市美術館「古都奈良・バスがゆく」 2/3~3/4			会場	当文化館内展示室					
目的と内容	近隣の文化施設の協力により出張展示を行い当館、当庭園の誘客を促進するとともに各施設の作品に身近に触れて奈良の魅力を感じていただける機会としたい。									
重点対象 (複数可)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民	○	未就学児	
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	しみんだより掲載、JR奈良駅サイネージのほかにチラシを文化施設、観光施設にこまめに配置依頼を行いたい。									
事業費(円)										
歳入										
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	0	歳出					
決算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	0						
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			無(展示雑記帳を設置)		アンケート結果		別紙添付のこと			
指標			評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成   果	参加者数・参加率の達成度		5		杉岡華邨書道美術館パネル展1200人(150%)入江泰吉出張展示1500人(125%)奈良市美術館ミニ出張展示1500人(125%)いずれも目標をクリアした。 目標値：パネル800人写真1200人ミニ1200人 実績値：パネル1200人写真1500人ミニ1500人					
	参加者満足度		4		展示用雑記帳より パネル展「かなの深さに日本の宝を感じる」「なかなか読めない難しさも」仕方ありません。入江出張展「感激そのもの」「写真は奈良に住むものの誇り」奈良市美術館「こんなバスに乗ってみたい」「次回は奈良電展やうて下さい」など懐かしさとほっこり感の感想が多くてほほえましい。					
	重点対象に対する課題解決つながったか		4		しみんだより、JR奈良駅サイネージへの掲載は予定通り実施できた。チラシの配置については26箇所ほど行っているが、再配置については重点的に行った。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4		当文化館の近隣の文化施設の紹介ができることに大変感謝している。複合的な効果があると思っ					
総合評価(自動計算)			4							
参加者や協働相手からの意見			<p>(参加者) 展示用の雑記帳を2階の展示コーナーに設置しており、三つの展示で10ページのコメントをいただけた。コメントのほとんどが懐かしさや親しみや素晴らしさを感じたなど満足度は高いと思う。</p> <p>(協働者) 奈良市総合財団をはじめ、各施設のご協力の賜物で成り立っている行事です。許される限り継続していきたいと思えます。</p>							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	今年度も当館を訪れたお客様に奈良を代表する芸術家の紹介ができ、また生活感あふれる企画展示ができたことに対して感謝あるのみです。				継続してご協力を得て出張展示を行い、活性化に努めていきたいと思えます。					
評価										
(奈良市) 他の文化施設の出張展示などを積極的に実施している。 サテライト展示のような形で、観光客などにも観覧してもらえる機会となり一定の効果がある。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		暗室体験～ピンホールカメラ～		施設名	入江泰吉旧居						
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目					
	基本施策	2-05		文化振興							
	施策	2-05-01		文化の振興		(1)-①					
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年度		実施回数					
	年1回 年4回										
日時	3月21日		会場	入江泰吉旧居及び東大寺境内							
目的と内容	入江泰吉の大和路初期作品が生み出された暗室を使って、モノクロ現像の体験を行う。またカメラの原理を知っていただくため、今回はピンホールカメラを使って撮影、現像、プリント作業をする。写真文化の振興に努める。										
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>	
	小中学生	<input type="checkbox"/>	若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>	
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
	その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	デジタル写真が主流のなか、カメラの原理と白黒写真の現像を体験する機会を提供し、写真表現への魅力を伝える。										
事業費(円)											
歳入											
予算	市費(指定管理料等)	0		その他収入 (事業収入等)	16,000		歳出				
							16,000				
決算	市費(指定管理料等)			その他収入 (事業収入等)	1,035		歳出				
							1,035				
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				無		アンケート結果		別紙添付のこと			
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度		2	当初、秋に奈良教育大学と連携し開催する予定でしたが、調整がつかなかった。よって春先に実施。定員5名に対し、3名の参加があった 目標値：各5人 × 4回 1回=20人 ⇒ 5人実績値：3人							
	参加者満足度		4	参加された方は、40代女性一人、40代の男性とその娘(中学生)、計3名。いずれも暗室を使った写真現像に興味深々で満足されたと思われる。							
	重点対象に対する課題解決つながったか		2	暗室へは5名程度しか入れないため、講座回数を増やす予定をし、また奈良教育大学と連携して事業を行う予定であったが、都合がつかなく人材も確保できなかった。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		3	暗室での作業及び解説については、写真美術館協力のもと、講座の内容、質は維持できたと思われる							
総合評価(自動計算)				3							
参加者や協働相手からの意見			(参加者) *初めての体験で現像液から浮かびあがる画像に驚いた。 *アルミホイルに小さな穴をあけた、シンプルなカメラなのに、写真がきれいに撮れることにびっくりした。 (協働者) *ピンホールカメラの講座は、カメラや写真の原点が分かりやすく良いと思われる。しかしながら暗室が狭く大人数では確保が難しい。								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	旧居の暗室を使って、今回のようなピンホールカメラで東大寺を撮影し、すくさま現像してプリントできる一連の講座は、写真文化向上に役立てると思われる。しかしながら人数を多く集めて収益をあげる事業としては難しい面はある。今回は奈良教育大学との連携がうまく調整できなかったが、再度、調整して事業展開をはかりたいと思う。				人数は少なく、収益も少ない一方で、暗室関係の材料等の経費が高つく。また講座に関わるサポートが必要のため、人材の確保が必要である。これらのことを踏まえつつ、改善し、また連携協力できる大学や団体と関わり調整する。参加費は次年度から値上げする予定。						
評価											
(奈良市) 目標値に対して実績が低く、内容の見直しが必要と思われる。 「令和」になり、万葉集への注目が集まっていることが追い風になることを期待しているが、広報の工夫とともに企画についての工夫が必要。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		入江泰吉と万葉集			施設名	入江泰吉旧居					
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化			文化振興計画 該当項目	(16) - ②					
	基本施策 施策	2-05 文化振興 2-05-01 文化の振興									
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年度	実施回数	年4回					
日時	7/22, 8/12, 10/14, 10/21			会場	入江泰吉旧居						
目的と内容	晩年、入江泰吉は万葉集に傾倒し、万葉集をテーマに風景や花を精力的に撮影してきた。万葉集をテーマに入江作品と奈良の魅力を再発見する。										
重点対象 (複数可)	市民	○	市外在住者	○	観光客	○	地域住民	○	未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)	○	社会人(40歳未満)	○	社会人(40歳以上)	○	高齢者	○	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人	○			
	その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	万葉集をテーマに講義するにあたり、万葉文化館の万葉集研究員の協力を仰ぎ、理解、広報に努める。										
事業費(円)											
		歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	0				その他収入 (事業収入等)	20,000				20,000
決算	市費(指定管理料等)					その他収入 (事業収入等)	17,762				17,762
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果	別紙添付のこと					
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)								
成 果	参加者数・参加率の達成度	2	目標値80人の参加者数に対し、22人。達成率は27.5% 目標値: 各20人 × 4回 = 80人 実績値: 22人								
	参加者満足度	5	アンケートを実施し、21名から回答(回答率95.5%)。その中で「大変良い」の回答が90.5%、「良い」も含めると100%となる。								
	重点対象に対する課題解決つながったか	2	万葉集をテーマにした新規事業ということもあるが、広報不足な点があったように思われる。								
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	飛鳥万葉文化館の研究員や万葉集に関係している方を招いたこともあり、質の確保はできたと思われる。								
総合評価(自動計算)		3									
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*年表がメインの歴史の勉強からは見えてこない、古代の社会の様子や人々の心情が見えてきました。</li> <li>*全く知識のなかった万葉集のことを知ることが出来て有意義でした。</li> <li>*題詞というものも教えて貰い興味深いお話が聞けた。とても良い講座だった。</li> </ul> <p>(協働者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*入江泰吉や奈良を知るキーワードとして「万葉集」は有効である。</li> <li>*新規事業ということもあるが、広報の周知が不足だったと思われる。</li> </ul>									
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	新規事業として「万葉集」をテーマとした講座を開催。講座の質を高めるため、飛鳥万葉文化館の研究員を要請するなど、内容としては良かったと思われる。しかし目標値が届かない現状を考えると、広報不足であり改善する必要あり。また万葉講座を開催するにあたり、飛鳥万葉文化館研究員を派遣していただいたが、通常は1回ということなので、今後、講師の選定を考える必要がある。				目標値に届かなかったが、講座内容と質に関しては高い評価を得ていると考えている。課題は、講座の周知を充実させる必要がある。また本年は元号に万葉集が引用元ということもあり、万葉集に高い関心があると予想される。このことを踏まえて、講師の選定と開催日時等、早い段階から取りかかり広報の周知を徹底したいと思う。						
評価											
<p>(奈良市)</p> <p>目標値に対して実績が低く、内容の見直しが必要と思われる。 「令和」になり、万葉集への注目が集まっていることが追い風になることを期待しているが、広報の工夫とともに企画についての工夫が必要。</p>											



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		入江泰吉を語り継ぐ		施設名	入江泰吉旧居					
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	( 16 ) - ②			
	基本施策 施策	2-05 2-05-01		文化振興 文化の振興						
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成28年度		実施回数	年8回 年6回			
日時	6/23, 7/1, 7/22, 11/4, 12/2, 1/12			会場	入江泰吉旧居					
目的と内容	入江泰吉と親交のあった、またはゆかりのある方に思い出話を語っていただき、写真家・入江泰吉の人物像に迫る。 ※本年度より有料									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生		若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯		障がい者		在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人	<input type="checkbox"/>		
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	入江が亡くなり26年が経ち、親交があった方も少なくなりつつある。入江の業績を再確認し周知に努める。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	0		その他収入(事業収入等)	60,000		60,000			
決算	市費(指定管理料等)			その他収入(事業収入等)	41,200		41,200			
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員ホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果			別紙添付のこと		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	当初は年6回の予定だったが、講師の要望で1回増、次年度予定だった人が今年度に変更となり年8回となる。目標値1回につき20人を予定、160人の参加者数に対し、124人。達成率は77.5%であった。 目標値：各20人 × 6回 ⇒ 8回 = 420人 ⇒ 160人 実績値： 124人							
	参加者満足度	4	アンケートを実施し58名から回答あり(回答率46.8%)。その中で「良い」以上の回答の方が96.6%と満足していただけたと思われる。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	3	講師によって、参加者人数にバラツキがでており目標値に届かなかったことを踏まえ、解決されたとは言えない。引き続き広報、周知に努める。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	著名な写真家である三好和義氏を招いたり、彫刻家・水島石根や版画家・小原春夫など、入江泰吉と親交のあった作家を取り上げて紹介した。							
総合評価(自動計算)		4								
参加者や協働相手からの意見			(参加者) *入江先生の生きた昭和の時代の話、楽しく聞かせて頂きました。写真美術館設立についてのお話も興味深かったです!! *入江先生、奥様の生き生きとした素敵なお姿について目にかかると楽しく、聞かせて頂きました。 (協働者) *入江泰吉の人となりを知る良い機会だと考えている。 *講師によって参加者にバラツキがあるが、さらなる広報に努めたい。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	チラシやSNS等で講座の周知をはかっているが、まだまだ広報不足な点もあるかと思われる。引き続き広報を充実させ努めていく。 入江泰吉が亡くなって27年になる。入江と親交のあった関係者は高齢となっている方が多く、関係者が少なくなっている。				入江泰吉と親交のあった関係者が少なくなっていること、講座の質を下げないことを踏まえ、次年度は回数を減らす予定。そして回数を減らした分、内容を充実させ、広報の徹底をはかる。					
評価										
(奈良市) 入江泰吉の関係者が講師となっているため、年々開催が難しくなっている。回数を減らすことを予定しているが、施設の主たる目的に直接つながる事業であり、内容への工夫が求められる。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		第15回新春造形まつり 奈良市児童生徒作品展		施設名	奈良市美術館	
総合計画 該当項目	章	第2章	教育 歴史 文化	文化振興計画 該当項目	(1)-①、(2)-① (2)-②	
	基本施策	2-05	文化振興			
	施策	2-05-01	文化の振興			
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成16年	実施回数	1
日時	平成31年1月4日（金）～6日（日）		会場	奈良市美術館		
目的と内容	奈良市立の小・中等学校、市内養護学校と連携協力し、児童生徒による図工美術の成果を紹介。鑑賞を通じて創作意欲を高め、豊かな表現力を育てることを目的に開催する。奈良市立の小・中・高等学校、市内養護学校の児童生徒による平面作品、立体作品を紹介する。					
重点対象 (複数可)	市民	シ	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児
	小中学生	シ	若者(高・大等)	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者
	子育て世帯		障がい者	シ	在留外国人	訪日外国人
	その他	( )				
重点対象に対する 課題と取り組み	広報の拡大を行い集客増につなげたい。					
事業費(円)						
	歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)	87,000	その他収入 (事業収入等)	87,000		
決算	市費(指定管理料等)	70,632	その他収入 (事業収入等)	70,632		
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果	別紙添付のこと
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成 果	参加者数・参加率の達成度	5	参加率達成率：276.1% (昨年県文化会館で開催実績をもとに目標値を設定) 目標値： 1,000 実績値： 2,761			
	参加者満足度	4	アンケート項目5の、大変良かった・良かったが97%になり本展覧会に満足頂いた。			
	重点対象に対する課題解決につながったか	3	アンケート項目2の奈良市内参加者が81%。また項目3の20歳未満22%となり対象者にあった展覧会が開催できた。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	作品点数が多かったが展示指導の先生方とレイアウトを含め出来るだけ見やすくするように努めた。			
総合評価(自動計算)			4			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) アンケート意見：見やすく、広くて、良かったです。 良い展示だったと思います。 奈良市の生徒たちの作品を見てもらう機会を今後も継続してください。 (協働者) PR不足 美術館までの作品搬入経路が複雑になった。 ポウリング場の音が気になった。				
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	昨年までと美術館の周辺環境が違うということで来館者が戸惑っていた。PRについては公共施設や市内小・中学校にポスターチラシを配布している。			会期中美術館までの導線上に案内看板やポスターなどを貼りだし(ミ・ナアラに承諾を得て)混乱を避ける様に努める。 次年度も2500人以上の来館者を呼べるよう努める。		
評価						
(奈良市) 毎年実施している定番の事業である。 昨年度、別会場での実績をベースに目標を設定したため、達成率が高くなった。 施設にポウリング場が隣接するなど、環境面の変化が大きく、アンケートなどでも指摘があった。						

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		第37回奈良市美術家展			施設名	奈良市美術館					
総合計画 該当項目	章	第2章		教育 歴史 文化	文化振興計画 該当項目	(1) - ①、(2) - ① (5) - ③					
	基本施策 施策	2-05 2-05-01		文化振興 文化の振興							
実施形態	単発・継続		事業開始年	昭和57年		実施回数	1				
日時	平成30年9月29日（土）～10月14日（日）			会場	奈良市美術館						
目的と内容	多くの市民に郷土の美術家である奈良市美術家協会会員の優れた美術作品を鑑賞していただける場を提供する事で、美術及び創作活動に関する知識と意欲の高揚を図る機会とし、市民の美術文化に対する振興と発展を目指す。協会会員が一人1作品を出展し7部門で約70点の作品を展示。会期中には各部門の代表者による作品解説もおこなう。入場無料。										
重点対象 (複数可)	市民	シ	市外在住者		観光客		地域住民		未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)	シ	高齢者	シ	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人				
	その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	作品展示について、高齢者が見やすいように作品の展示高を少し下げたり、キャプションが見やすいようなフォントで作成するよう取り組む。										
事業費(円)											
歳入											
予算	市費(指定管理料等)	870,000			その他収入 (事業収入等)				歳出		
決算	市費(指定管理料等)	720,634			その他収入 (事業収入等)				720,634		
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				(有) 無		アンケート結果		別紙添付のこと			
指標		評価 (5点満点)		評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成	参加者数・参加率の達成度		3		参加率達成率：99.5%						
					目標値： 1,500		実績値： 1,492				
果	参加者満足度		3		アンケート項目5の、大変良かった・良かったが87%になり概ね本展覧会に満足頂いた。						
	重点対象に対する課題解決つながったか		4		今回の作品展示では通常作品のセンターが145cmにするところを140cmに下げ、高齢者に見やすい作品展示を心がけた。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		4		奈良市美術家協会の各部門の作家先生に展示指導をしていただき、バランスの取れた見やすい展示が出来た。						
総合評価(自動計算)				4							
参加者や協働相手からの意見				(参加者) アンケート意見：ボーリングの音がうるさい。 聴音で美術館費をする雰囲気が悪くなる。 など、美術館の周辺環境に対する意見があった。  (協働者) 作品出品の方からも、美術館の周辺環境に対する意見が多くあった。							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	作品展示位置を下げたり、キャプションを少し大きくしたりと改善を図った。また、キャプション内容の充実を図るよう努めたい。				キャプションには作家名・作品名・作家のコメントが書かれているが、その他の情報をもう少し増やせないか検討している。 来年度は1500人以上の来館者を呼べるよう努めたい。						
評価											
(奈良市) 奈良市美術家協会の協力を得て、毎年実施している。 来館者の年齢層が高いため、キャプションの字を大きくするなど、来場者の特性に合わせた対応をしている。 施設周辺の環境変化については出展者からも苦情があった。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		奈良を観る～大和路・バスがゆく～			施設名	奈良市美術館			
総合計画 該当項目	章	第2章	教育 歴史 文化		文化振興計画 該当項目	(1)-①、(2)-①			
	基本施策	2-05	文化振興			(2)-④、(5)-③			
	施策	2-05-01	文化の振興						
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成30年7月		実施回数	1		
日時	平成30年7月10日（火）～8月12日（日）			会場	奈良市美術館				
目的と内容	近代奈良の交通情勢と生活文化の変遷を写真やパンフレットなどの歴史資料から見直そうとするものです。大正期から昭和時代までの歴史資料から、暮らしの中にあるバスや旅情を乗せて走る観光のバスなど、バスを通して奈良の風景や生活文化の移ろいを紹介します。								
重点対象 (複数可)	市民	レ	市外在住者	レ	観光客	地域住民	未就学児		
	小中学生		若者(高・大等)		社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者		
	子育て世帯		障がい者		在留外国人	訪日外国人			
	その他	( )							
重点対象に対する 課題と取り組み	告知方法の拡大を行い集客につなげたい。								
事業費(円)									
	歳入				歳出				
予算	市費(指定管理料等)	730,000	その他収入(事業収入等)	315,000	1,045,000				
決算	市費(指定管理料等)	436,288	その他収入(事業収入等)	261,000	697,288				
事業成果									
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)					有	アンケート結果	別紙添付のこと		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)						
成 果	参加者数・参加率の達成度	3	参加率達成率：83.5% 目標値：2,400 実績値：2,003						
	参加者満足度	4	アンケート項目5の、大変良かった・良かったが96%になり本展覧会に満足頂いた。						
	重点対象に対する課題解決つながり	3	参加率達成率：83.5%に止まり目標を達成できなかった。						
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	当館学芸員と奈良交通の様々な部署の方たちと作品選定や会場内の配置など協力いただいた。						
総合評価(自動計算)			3						
参加者や協働相手からの意見			(参加者) アンケート意見：こんな素晴らしい思い出の展覧会ありがとうございました。近代の奈良の文化・歴史をとりあげていただき楽しんでいます。300円で十分楽しめた。奈良の昔の写真を見て家族と昔歩いた思い出にひたりいろいろと思い出がこみ上げてきた。 (協働者) 定期的に奈良の歴史についての写真展示などとしてはどうか。機会があれば是非再度開催したい。などの意見をいただいた。						
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標				
	市内はもとより県内・県外の公共施設やギャラリーにもポスターを配布するなどしPRに努めたが目標の数値には届かなかった。				PRについては無料の方策は出来る方法をとった。有料告知(新聞広告や駅貼り)などは予算上厳しい面もあり、費用対効果も考えながらPRについて進めていきたい。				
評価									
(奈良市) 館主催の美術展示事業ではあるが、館自体が多くの収蔵品を持つわけではなく、限られた予算のなかで可能な企画を行うことが求められている。バスをテーマにしたことで、美術を好む人のみならず、バス愛好者にも楽しんでもらえる企画となった。									

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		夏休み恐竜教室			施設名	北部会館市民文化ホール				
総合計画 該当項目	章	2		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(6)-①、(8)-①			
	基本施策	2-05		文化振興						
	施策	2-05-01		文化の振興						
実施形態	継続		事業開始年	平成26年度		実施回数	5			
日時	事業中止			会場	奈良市北部会館市民文化ホール					
目的と内容	恐竜模型造形家 荒木一成氏を講師に招き、指導を受けながら恐竜模型をすることによって子どもたちの夏休みの思い出として、また、専門家の知識、技術、姿勢に接することで学んでもらう。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客		地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)		社会人(40歳未満)		社会人(40歳以上)		高齢者	
	子育て世帯		障がい者		在留外国人		訪日外国人			
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み										
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)							
決算	市費(指定管理料等)		その他収入 (事業収入等)							
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有・無	アンケート結果	別紙添付のこと				
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度			目標値:	実績値:					
	参加者満足度									
	重点対象に対する課題解決つながったか									
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか									
総合評価(自動計算)			#DIV/0!							
参加者や協働相手からの意見			(参加者)							
			(協働者)							
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	参加者を抽選で決定する人気事業であるが、事業に係るコストの問題、使用する部屋のスペース等を踏まえ、改善案を出しながら講師と交渉したが、時間的、内容的にも折り合いがつかず、中止となった。									
評価										



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		ニュータウンフェスタたかのほら		施設名	北部会館市民文化ホール					
総合計画 該当項目	章	2	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1)-①③ (2)-①② (4)-①③④ (6)-① (8)-① (9)-①②③ (18)-②					
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興							
実施形態	継続		事業開始年	平成21年度	実施回数	10				
日時	平成31年3月9日 10時～16時30分		会場	奈良市北部会館市民文化ホール						
目的と内容	高の原近隣で文化活動している個人及び団体の交流の場として開催。ホール全室を使って舞台発表、作品展示、出店等を行い、世代を超えて楽しめるイベントを通じ、地域住民の活発な交流を生み出す。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="radio"/>	市外在住者	<input type="radio"/>	観光客	<input type="radio"/>	地域住民	<input type="radio"/>	未就学児	<input type="radio"/>
	小中学生	<input type="radio"/>	若者(高・大等)	<input type="radio"/>	社会人(40歳未満)	<input type="radio"/>	社会人(40歳以上)	<input type="radio"/>	高齢者	<input type="radio"/>
	子育て世帯	<input type="radio"/>	障がい者	<input type="radio"/>	在留外国人	<input type="radio"/>	訪日外国人			
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	これまで色々な催事を詰め込んできた感がある中、煩雑さ、マンネリ化という問題もあり、整理が必要。様々な世代が長い時間楽しめるような空間作りを考えて企画。									
事業費(円)										
	歳入				歳出					
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	358,000	358,000					
決算	市費(指定管理料等)		その他収入(事業収入等)	236,921	236,921					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				無	アンケート結果					
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	5	子ども対象にしたこともあって目標値を超えた。 目標値：2,000 実績値：3200							
	参加者満足度	5	参加者が溢れアンケート実施ができなかったが、これまでと違う、明るい、楽しい等 生の声を会場でたくさん聞かせていただけた。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	5	1年かけて企画する中、見直し内容、マンネリ打破、伸び悩み等 課題については今回クリアできた。子ども中心に家族が長い時間を会館で過ごせたと考える。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	これまでの反省点であった会場内の分かりづらさは解消でき、これまで以上に明るい雰囲気イベントになった。							
総合評価(自動計算)		5								
参加者や協働相手からの意見		<p>これまでと違って ブース等整理されており 見やすかった 子どもが楽しめるスペースが盛りだくさん</p> <p>案内表示が分かりやすく お客さんの混乱もなかった 子どもが1日楽しめる空間というテーマ通り 沢山の子どもたちが来館し、あちこちのブースが人であふれていた 会場が例年よりポップな感じで明るい雰囲気</p>								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標					
	10年目という区切りの年ということもあって これまでの内容を整理し、出演者のコラボレーションや館外でのちんどんによる呼び込み、TVによる事業告知等を行い、狭いスペースに3000人を超える来館者となった。子どもたちが1日中楽しめるようなフェスタに！これをテーマに企画し、ほぼ達成できた考える。				会館の1フロアという限られたスペースのため限界があり、今後出展数の見直しは必要ではない。今回10回目ということもあり、支出が多くなったが、今後、経費のかからないような実施方法を考えていかなければならない。					
評価										
(奈良市) 企画内容や広報面での改善策が功を奏し、大幅な来場数増加となった。 施設スペースの制限もあるため、出展数の整理は今後必要となる。 また、地域住民との交流が目的ではあるが、文化施設として文化振興につながる企画を実施していく必要もある。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		明日へ輝くコンサート Part.1・Part 2		施設名	北部会館市民文化ホール					
総合計画 該当項目	章	2	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2)-① (8)-②				
	基本施策	2-05	文化振興							
	施策	2-05-01	文化の振興							
実施形態	継続		事業開始年	平成26年度	実施回数	9				
日時	Part 1 平成30年9月23日 14時～ Part 2 平成31年3月3日 14時～		会場	奈良市北部会館市民文化ホール						
目的と内容	市民、地域の方々に身近なホールで優れた演奏を鑑賞していただく機会を提供する。Part 1は吉崎ひろし& N.B.Projectによるアコースティックコンサート、Part 2は田尻洋一氏によるショパン ピアノコンサートを開催。									
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>
	小中学生	<input type="checkbox"/>	若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人			
	その他	( )								
重点対象に対する 課題と取り組み	ピアノコンサートが続いていたが、今年度は新たな試みとしてパンジョーによるコンサートを実施、新たな客層を狙う。									
事業費(円)										
	歳入			歳出						
予算	市費(指定管理料等)	0	その他収入(事業収入等)	800,000	800,000					
決算	市費(指定管理料等)		その他収入(事業収入等)	727,912	727,912					
事業成果										
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			有	アンケート結果	別紙添付のこと					
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	Part1は新たな客層を狙ったが3連休という日程も良いのか集客数が伸びなかった。Part 2は早々にチケット完売となった。 目標値：300 実績値：350							
	参加者満足度	5	Part 1参加者は100人を切ったもののアンケートによる満足度は100%だった。200人参加となったPart 2もほとんどの方から満足いただいたがホールの作り、椅子等に関し不満の声があった。							
	重点対象に対する課題解決つながったか	5	参加者には満足いただけたが、開催日の設定、フラットで見にくいホールの作り、椅子の硬さ等問題点がいろいろ見えてきた。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	これまでピアノコンサートのみだったが、アコースティックコンサートという新たな試みによってこれまでと違った客層を得られたと思う。ピアノ・コンサートも年1回にした事で分散していた参加者が集結したと考えられる。							
総合評価(自動計算)		5								
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・ずっと続けてほしい。楽しみにしています。 ・後方で見えなかった(ステージの高さ フラットな床面等) (協働者)								
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標						
	これまでと違って異ジャンルを組み合わせた開催、内容的には問題なく参加者からは満足を得ることができたが、開催日程の設定によって左右されることを痛感した。			マンネリにならないような様々なジャンルによるコンサートを企画が必要。日程を組むにあたり今年度を参考にしたい。但し、相手との調整もあることから多々問題は生じると考えられる。						
評価										
(奈良市) これまでのピアノコンサートをアコースティックコンサートとして実施し、マンネリ化にならないように工夫した。集客が芳しくない日程があったため、開催日などの検討をしていく必要がある。										

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		平成30年度 高の原文化講座		施設名	北部会館市民文化ホール						
総合計画 該当項目	章	2	教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1)-③、(9)-③					
	基本施策	2-05	文化振興								
	施策	2-05-01	文化の振興								
実施形態	継続	事業開始年	平成17年度		実施回数	14					
日時	平成30年4月3日 ～平成31年3月27日		会場	奈良市北部会館市民文化ホール							
目的と内容	市民の健康増進及びコミュニケーションの場を提供することにより地域の活性化を目的とする。様々なジャンルの講座を通じて高齢者から子どもまでホールとして文化に親しんでもらえるよう、また当ホールが異世代交流の場となるよう企画・開催する。「地域の文化芸術振興」「地域のにぎわいづくり」「地域活性化推進」3つのテーマからなる30講座										
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>	地域住民	<input type="checkbox"/>	未就学児	<input type="checkbox"/>	
	小中学生	<input type="checkbox"/>	若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳以上)	<input type="checkbox"/>	高齢者	<input type="checkbox"/>	
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者	<input type="checkbox"/>	在留外国人	<input type="checkbox"/>	訪日外国人	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
	その他	( )									
重点対象に対する 課題と取り組み	開催年度によって波があるが、現在健康増進に関する講座(ヨガ等)の参加者が多く、文化芸術系の事業に関しては少ない。アンケート等による調査、講師との意見交換による見直しが必要な時期だと思う。										
事業費(円)											
	歳入				歳出						
予算	市費(指定管理料等)	0		その他収入(事業収入等)	20,832,000		20,832,000				
決算	市費(指定管理料等)			その他収入(事業収入等)	19,269,000		19,269,000				
事業成果											
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)				有	アンケート結果			別紙添付のこと			
指標			評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)							
成 果	参加者数・参加率の達成度		4	各講座とも高齢者の受講者が多く、継続受講されていたが体調、家庭の事情等でやめられる方が年々増加している。 目標値：18,000、実績値：15,906							
	参加者満足度		5	これまでの内容と変わらない事から可もなく不可もなくといった声が多かった。							
	重点対象に対する課題解決つなげられたか		5	講座開設時から変化なく行ってきた講座だが、マンネリ化している現状は否めず、事業の整理、見直しを図ることにより新たな受講生獲得に向け始動する計画をする。							
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか		5	各講座の講師とこれまで以上に情報交換を行い、受講生の生の声を聞く機会を多く持つようにした。							
総合評価(自動計算)			5								
参加者や協働相手からの意見			(参加者)受講料の徴収方法を毎月にしてはどうか? 体を動かす講座に参加しているかホールに自販機設置をお願いしたい。水分補給は必要。  (協働者)								
総括	評価年度の状況と課題				改善案・次年度以降の目標						
	10数年あまり変化なく開講してきた講座ということもあってアンケートに協力して下さる方も少なく、戻ってきたアンケートもほぼ特になしの回答であった。内容の見直し等考える時期にきていると思われる。				講座の内容や参加者数を分析し、内容の変更、講座を凝縮する。これまで文化講座一本だったものを文化と健康部門に分けて整理し開講。受講者に分かりやすい形で講座を計画する。コースを単独講座として計画し、より活動しやすいように計画する。						
評価											
(奈良市) 北部地域における市民の文化活動を振興する事業として展開。 講師、参加者とも固定化しており、健康部門など市民ニーズが高い講座事業も実施しているが、本来事業である文化関係の講座を中心とした展開が必要である。											

奈良市文化振興計画 事業評価シート(平成30年度)

事業名		奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良」		施設名	文化振興課			
総合計画 該当項目	章	第2章	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	(1)-①④、(2)-①②③④⑤ (5)-①②、(6)-①②			
	基本施策 施策	2-05 2-05-01	文化振興 文化の振興					
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成29年度	実施回数	1		
日時	平成30年10月～平成31年2月		会場	奈良市内各所 (ならまちセンター、なら100年会館、奈良国立博物館)				
目的と内容	<p>「東アジア文化都市2016奈良市」の後継事業として、アートで地域課題を掘り下げ、文化の多様性を創造力へとつなげることをめざす。</p> <p>主な内容/美術部門(チェ・ジョンファ氏による作品制作とワークショップ、グリーンマウンテンカレッジ)、演劇部門(平田オリザ氏によるワークショップ、青少年と創る演劇)ほか</p>							
重点対象 (複数可)	市民	市民	市外在住者	観光客	地域住民	○	未就学児	○
	小中学生	○	若者(高・大等)	○	社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	○	高齢者
	子育て世帯	○	障がい者	在留外国人	訪日外国人			
	その他	( )						
重点対象に対する 課題と取り組み	<p>当事業はアートを手法として課題の解決や学びの共有・次世代への伝達をめざしており、若年層がアートに触れるより一層の機会の創出が必要であると考え、そのためにはさらなる教育委員会との連携を通じて、学校や幼稚園・保育施設などとの協力体制を築けるよう、情報提供の機会や賛同者を増やすよう努める。</p>							
事業費(円)								
	歳入			歳出				
予算	市費(指定管理料等)	11,232,000	その他収入 (事業収入等)	11,232,000				
決算	市費(指定管理料等)	10,731,756	その他収入 (事業収入等)	10,731,756				
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)		有・無		アンケート結果		別紙添付		
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成 果	参加者数・参加率の達成度	4	目標値16,000人/実績値11,511人、達成率71.9% 目標値: 16,000 実績値: 11,511					
	参加者満足度	4	各プログラムアンケート結果を平均し、①大変良かった②良かったが87.8%であった。また人に勧めたいかという項目では①とても勧めたい②勧めたいが78.4%であった。					
	重点対象に対する課題解決につながったか	3	アンケートより参加者属性は、10代25%・40代21%・30代14%・50代13%・60代10%・20代7%・70代7%・80代1%・未記入2%であり、10代の方や子育て世代にも参加をいただいているが、より多くの方に参加いただけるよう努める。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	美術・演劇の各プログラムディレクターや各プログラムに参加いただいたアーティスト、講師は美術分野、現代アート分野、演劇分野の第一線で活躍されている方ばかりである。					
総合評価(自動計算)		4						
参加者や協働相手からの意見		<p>(参加者)・子どもでも参加できるというのが魅力的(美術WS・30代女)・面白い発見がありワクワクした(美術作品展示・60代女)・普段意識していないことを考える機会を得られた(平田オリザWS・30代男)</p> <p>・役者の個性が出ており、現代の中高生と奈良の歴史性を活かす脚本で大変レベルが高い。(演劇・30代女)</p> <p>・PRがあまりなされていない。良さが伝えきれていない(GMC・50代女)</p> <p>(協働者)</p> <p>今回の奈良でのグリーンマウンテンカレッジの開催は、ハードではなくソフトを、モノではなくコトを、芸術の自律ではなく共創を、という時代において、スローな時間をかけて芸術教育、人間教育の最先端になっていくのではないかと考えている。(美術プログラムディレクター)</p>						
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
	<p>今年度は新プログラムとして「グリーン・マウンテン・カレッジ」を開校し、対話によるプログラムを加えることで、今までとは違ったアートへのアプローチを試みたところ、趣旨を理解していただくことが難しい面もあった。しかし「学び合いの場」として位置付けることによって、日頃はアートに関心のない人も参加しやすいプログラムとなった。</p>			<p>アートプロジェクトの新たな境地を切り開くためには、今後の「グリーン・マウンテン・カレッジ」のような「学び合い」のアートプログラムを定着させ、人材育成につなげていく必要がある。次年度には「奈良市文化振興計画」の第二次計画策定が検討されることに伴い、奈良市アートプロジェクトとしての中長期的な展望に基づき、第二次計画内に位置付けする必要がある。</p>				
評価								
<p>(奈良市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンマウンテンカレッジや青少年と創る演劇は、実際の参加者は数十人単位であったものの、報告書やSNS等の事後発信により、市民の関心は高められた。今後はこのような形を含めて事業への関係人口の増加を図るべきである。</li> <li>事業後に複数団体による意見交換会を開催し、実施団体による市内でのアート事業の報告も行われた。このようにアートを通じて、どのような地域貢献ができるのか等、市民と共に自分たちの住む街の展望を考える機会を得たことも評価すべき点である。</li> </ul> <p>(奈良市文化振興計画推進委員視察による評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画での目標は十分に満たされた事業であり、長期的に続けることで、更に意義のある事業になると考える。</li> <li>稽古や本番の様子をアーカイブ化し、誰もが気軽にみられるようにしたり、キャバの小さな劇場での巡回公演などを行うことで、事業の意味がより伝え広まると思われる。</li> <li>人材育成の面から、制作できる人材も市内に求め、人的資産を作り出すことも、長期的に続けていく事業として重要である。</li> <li>事業の発信力を高めることに繋がるため、専門家による記録・評価ができると望ましい。</li> </ul>								

奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		東アジア文化創造NARAクラス			施設名	文化振興課		
総合計画 該当項目	章	第2章		教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(1) - ② (9) - ④	
	基本施策	2-05		文化振興				
	施策	2-05-01		文化の振興				
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成29年度		実施回数	1	
日時	平成30年7月～11月			会場	ならまちセンター他			
目的と内容	「東アジア文化都市2016奈良市」の後継事業として、中国・寧波市と韓国・済州特別自治道との国際文化交流プログラム。 市内在住・在学の大学生・高校生を対象に、参加者募集を行い、事前ワークショップ（東アジア学びの扉）や奈良市での交流プログラム、中韓での交流プログラムを行うことで、自らの表現力を養うとともに国際性を身に付けることを目的としている。							
重点対象 (複数可)	市民	市外在住者	観光客	地域住民	未就学児			
	小中学生	若者(高・大等)	○ 社会人(40歳未満)	社会人(40歳以上)	高齢者			
	子育て世帯	障がい者	在留外国人	訪日外国人	○			
その他	( )							
重点対象に対する課題と取り組み	大学生や高校生はあまり自治体主体のイベント等に参加することが少ないが、海外プログラム実施などによって事業の魅力を高めるようにしている。							
事業費(円)								
	歳入				歳出			
予算	市費(指定管理料等)	9,885,000	その他収入(事業収入等)	400,000	10,285,000			
決算	市費(指定管理料等)	6,673,879	その他収入(事業収入等)	400,000	7,073,879			
事業成果								
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			○ 有・無 (一部項目なし)		アンケート結果	別紙添付		
指標		評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)					
成 果	参加者数・参加率の達成度	2	交流延べ人数150人を目標にしたが、128人の実績となった。 参加応募については、20人定員のところ24人の応募があった。 目標値: 150 実績値: 128					
	参加者満足度	4	参加者レポートによると、自らの成長につながる体験ができたという意見が多く、満足度は高い。					
	重点対象に対する課題解決につながったか	3	現代アートやダンスのワークショップを中心にプログラムを行うことで、若い世代の人が魅力を感じられるように企画した。一方で、アートは分からないと参加をためらう意見もあった。					
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	奈良市アートプロジェクトのディレクターである西尾美也氏ら、活躍中の芸術家たちや若手僧侶が講師になることで、質の向上につながった。					
総合評価(自動計算)		3						
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・言葉以外のコミュニケーションがあることを学んだ。 ・「違い」こそがアートの源泉となる。 ・報道でみる中国・韓国のイメージが変わった。 (協働者) ・身体表現のWSは日中韓参加者同士の距離が縮まるので良い企画である。(寧波交流団)						
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標				
	同じ東アジア文化都市の後継事業である奈良市アートプロジェクトとの企画連携を意識した。参加者がイメージする「アート」の概念をくずし、誰もが表現者になることができるということを学ぶ機会になった。一方、「アート」をテーマにしたことで、苦手意識を持つ人が参加をためらうことがあり、企画意図の伝え方に工夫が必要であった。			本事業は毎年度テーマを変えており、過去の参加者でも学びを深めることができるようにしている。海外渡航を伴うプログラムで参加できる人数に限りがあるため、応募時に明確な目的意識があることを選考時の評価に取り入れるなどとして、プログラム参加の成果を自身の将来に活かすことができる人に参加してもらいたい。				
評価								
(奈良市) 海外渡航を伴うため参加者数が限られるということはあるが、企画次第で交流人数を増やすことは可能である。大学生や高校生だけの交流ではなく、プログラムの成果を市内外の人に見てもらえるような仕組み作りが必要。								



奈良市文化振興計画 事業評価シート（平成30年度）

事業名		入江泰吉記念写真賞、ならPHOTO CONTEST		施設名	文化振興課	
総合計画 該当項目	章	第2章 教育・歴史・文化		文化振興計画 該当項目	(2) - ②③、(5) - ② (18) - ①	
	基本施策	2-05 文化振興				
	施策	2-05-01 文化の振興				
実施形態	単発・継続		事業開始年	平成25年度	実施回数	1 (2か年で1回開催)
日時	作品募集 平成30年6月1日～7月31日 受賞作品展覧会 平成31年2月22日～4月7日		会場	入江泰吉記念奈良市写真美術館		
目的と内容	入江泰吉記念写真賞/奈良大和路を約半世紀にわたって撮り続けた写真家・入江泰吉の文化・芸術への功績を記念するとともに写真文化の発信と新たな写真家の発掘を目的とする。私たちの心に深く記憶される普遍的な生の眼差しを持った写真の作り手を支援するため、未来そして世界へのメッセージとして、受賞作品の「写真集」を製作する。					
重点対象 (複数可)	市民	<input type="checkbox"/>	市外在住者	<input type="checkbox"/>	観光客	<input type="checkbox"/>
	小中学生		若者(高・大等)	<input type="checkbox"/>	社会人(40歳未満)	<input type="checkbox"/>
	子育て世帯	<input type="checkbox"/>	障がい者		在留外国人	<input type="checkbox"/>
	その他	(写真家を志す人、写真を愛するすべての人)				
重点対象に対する課題と取り組み	ならフォトコンテストは、誰もが気軽に応募できる写真コンテストであり、様々な層からの応募を期待している。今回のカテゴリ-2のテーマ「家族atなら」への子育て世帯からの応募を促すため、ファミリー向けイベントや店舗への広報を強化した。					
事業費(円)						
	歳入			歳出		
予算	市費(指定管理料等)	1,800,000	その他収入(事業収入等)	6,700,000	8,500,000	
決算	市費(指定管理料等)	1,731,189	その他収入(事業収入等)	6,470,010	8,201,199	
事業成果						
アンケートの有無 (事業満足度、職員のホスピタリティ、施設の設備水準、事業を誰かに勧めたいか、の項目を入れたもの。)			<input checked="" type="radio"/> 有 (一部項目なし)	アンケート結果	別紙添付 (受賞展覧会のみ)	
	指標	評価 (5点満点)	評価内容(件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入)			
成	参加者数・参加率の達成度	3	目標値 入江賞100点、なら PHOTO CONTEST(カテ1)400点、(カテ2)250点 ※前回水準 実績値: 入江賞95点、フォトコン(カテ1)392点(カテ2)54点			
	参加者満足度	-	応募者アンケートは実施していないため、データなし			
果	重点対象に対する課題解決つなげたか	2	ファミリー向けイベントでのチラシ配布や店舗へのチラシ設置等地道な広報をしたが、応募数は伸び悩んだ。			
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	4	審査員に第一線で活躍する写真家やギャラリートディレクター、文化人を迎えることで、入江賞およびならPHOTO CONTESTカテゴリ-1は、それぞれプロ志向の人、セミプロレベルの写真愛好家から安定的な応募があり、権威ある写真コンテストとして認知されつつある。			
総合評価(自動計算)			3			
参加者や協働相手からの意見		(参加者) ・入江賞、なら PHOTO CONTESTが同時開催であるため、何に応募したら良いのかわかりにくい。(応募者) ・受賞作品の写真集を製作できることは大変価値のあることであり、製作過程でも学びがたくさんあった。(入江賞受賞者) (協働者) 三回目となる今回は、応募作品の質が格段に上がり、写真家を志す人達にも入江賞の意義は確実に認知されてつつある。(実行委員)				
総括	評価年度の状況と課題			改善案・次年度以降の目標		
	入江賞とならPHOTO CONTESTカテゴリ-1は応募数と質が安定しており、今後同様に見込めると考えるが、カテゴリ-2は見直しが必要である。今回からの新しい試みとしてサポーター制度(個人協賛)を開始した。受賞者の決定後、受賞者の支援者が集まり、写真集製作を支えていただいた。			なら PHOTO CONTESTカテゴリ-2は、テーマ設定、応募形態(デジタル応募等)、カテゴリ-2の廃止等、抜本的な改善案を検討する。なら PHOTO CONTEST応募者はシニア世代が多く、若い世代により応募していただける企画案を検討する。サポーター制度は、次年度以降も継続するが、協賛金入金手段が現在は銀行振込のみであり利便性に欠けるため、インターネット環境によるキャッシュレス支払いなど検討したい。		
評価						
(奈良市) ・奈良を題材とした入江氏の写真は、奈良が持つおほかで安らぎをもたらすイメージを多分に感じさせる偉大な財産である。この氏の写真賞や奈良をテーマとするコンテストは、奈良市文化振興計画においても文化の振興に関する重要事項に位置づけられており、写真賞の応募作品の質の向上や応募点数の安定は、評価すべき点である。 ・今後は応募者アンケートを実施し、応募方法の簡略化やキャッシュレス支払いの導入をはじめとするニーズの把握等、写真文化のすそ野を広げることに注力するとともに、この賞をきっかけとして、奈良を訪れる方が益々増える事業となるような展開方法にも工夫をしていただきたい。						